種ごとの調査結果

種ごとの調査結果

＜ 目 次 ＞

身近な生きもの

植物	セリ	…20
	シナノタンポポ	…21
	シロバナタンポポ	…22
	ヤブカンゾウ	…23
	ウツボグサ	…24
	ワレモコウ	…25
魚類	シマドジョウ	…26
水生生物	カワニナ	…27
	サワガニ	…28
	ホウネンエビ	…29
昆虫類	ギンヤンマ	…30
	クロスジギンヤンマ	…31
	ツマグロヒョウモン	…32
	ヒグラシ	…33
	カブトムシ	…34
	ミヤマクワガタ	…35
	トノサマバッタ	…36
鳥類	カワセミ	…37
	オオヨシキリ	…38
	ヒバリ	…39
	ツバメ	…40
	イワツバメ	…41
	カッコウ	…42
	オナガ	…43
哺乳類	アブラコウモリ	…44
	ノウサギ	…45
	ホンドギツネ	…46
爬虫類	ニホントカゲ	…47
	ニホンカナヘビ	…48
陸上貝類	カタツムリの仲間	…49

希少な生きもの

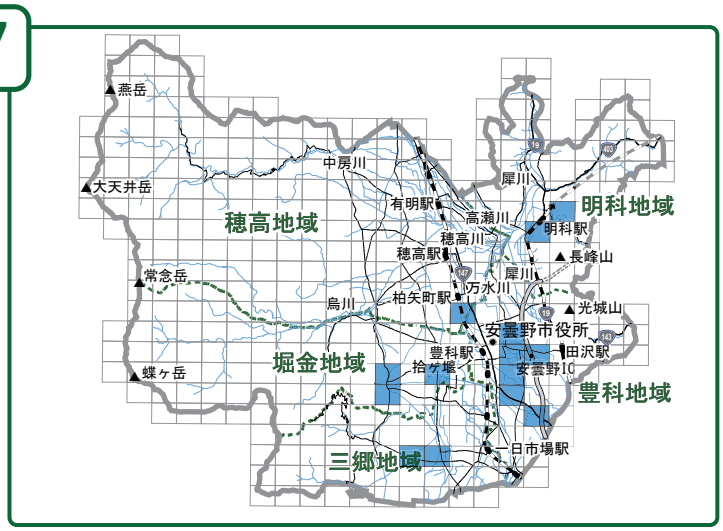
植物	ミクリ	…50
	ナガエミクリ	…51
	バイカモ	…52
	カワヂシャ	…53
	カワラニガナ	…54
	イヌノフグリ	…55
	アマナ	…56
	ユウスゲ	…57
	ササユリ	…58
魚類	カジカ	…59
	ドジョウ	…60
	ホトケドジョウ	…61
昆虫類	ゲンジボタル	…62
	ヘイケボタル	…63
	アオハダトンボ	…64
	タイコウチ	…65
	オオルリシジミ	…66
鳥類	ヒクイナ	…67
	ヨタカ	…68
	アオバズク	…69
両生類	トノサマガエル	…70
	トウキョウダルマガエル	…71
哺乳類	ニホンカモシカ	…72
陸上貝類	キセルガイの仲間	…73

注意すべき生きもの

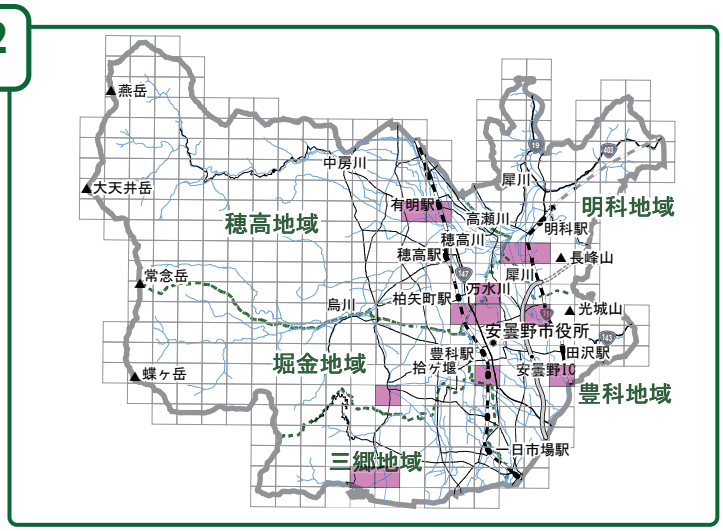
植物	オオカワヂシャ	…74
	アレチウリ	…75
	セイヨウタンポポ	…76
	オオキンケイギク	…77
	オオブタクサ	…78
	ナヨクサフジ	…79
水生生物	コモチカワツボ	…80
昆虫類	アオマツムシ	…81
哺乳類	ハクビシン	…82
	アライグマ	…83
	ニホンイノシシ	…84
	ニホンジカ	…85

植　物（セ　リ）

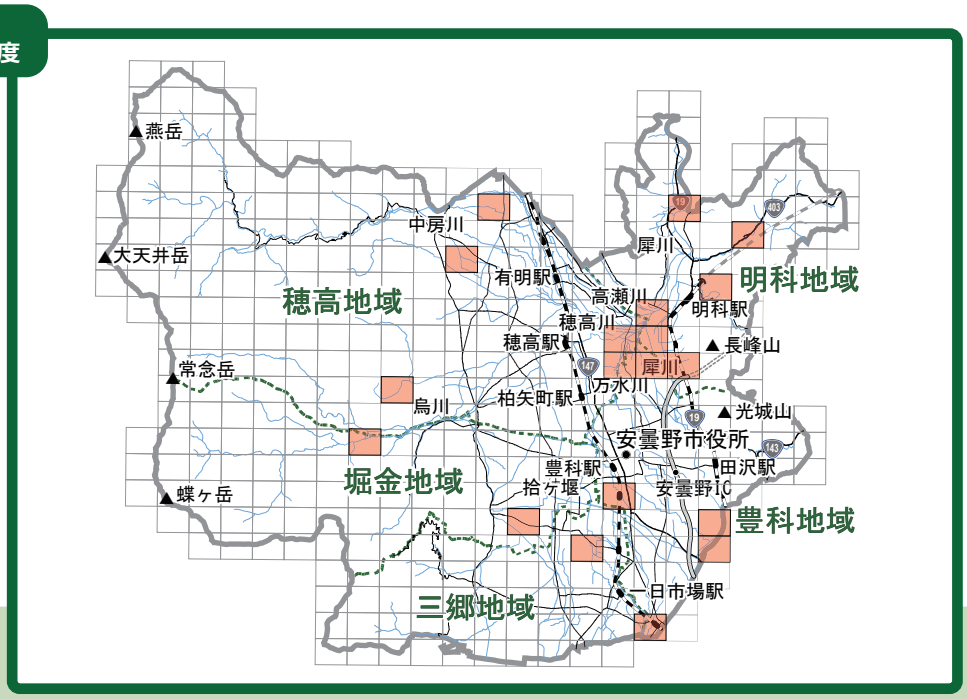
2007 年度



2012 年度



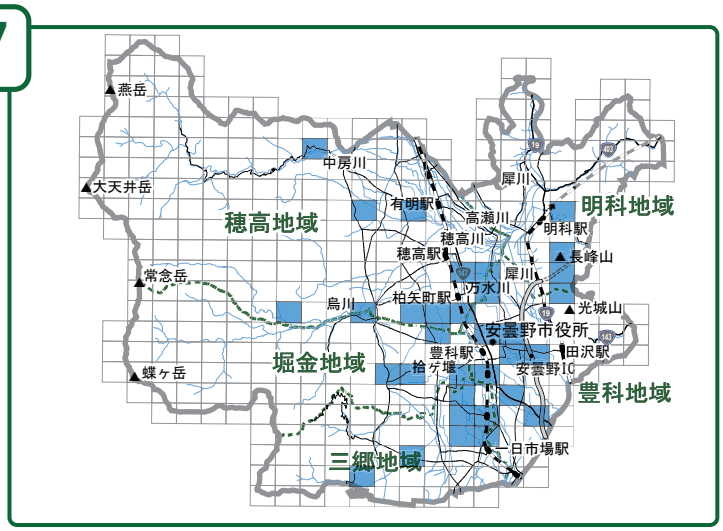
2018 年度



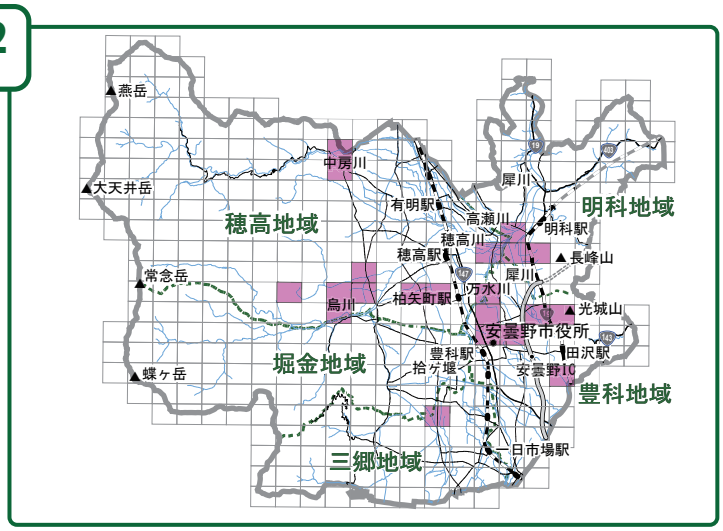
セリは、各年度とも平地から山麓部にかけての広い範囲で生育が確認されており、市内の生育状況に大きな変化はみられませんでした。特に今回の調査では、セリの生育に適したワサビ田や湧水の流れる用水路が多い穂高地域や明科地域で多数確認されています。

植　物【シナノタンポポ】

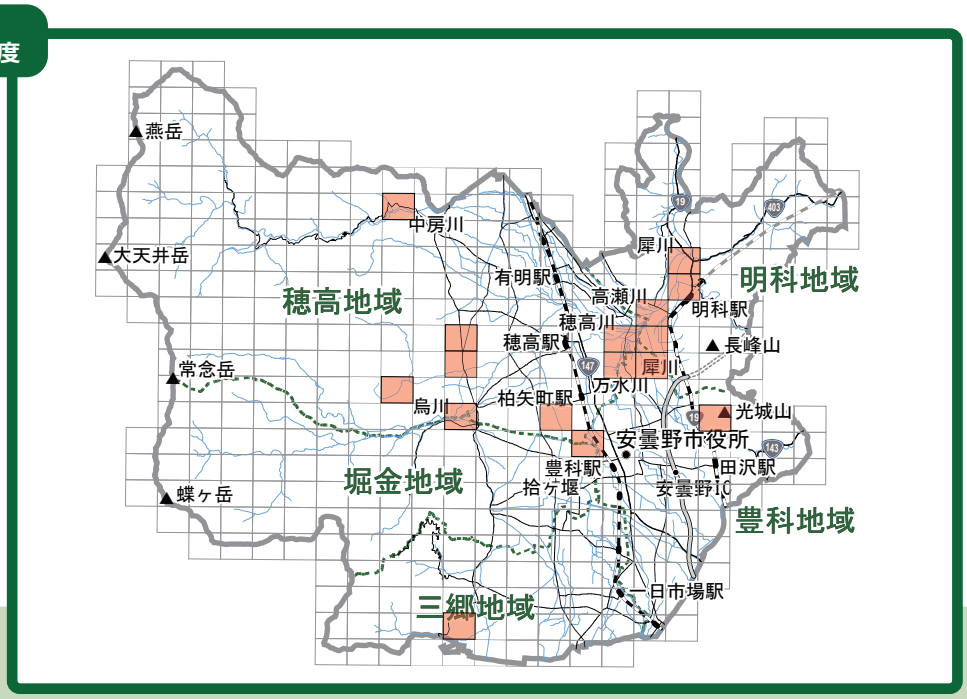
2007 年度



2012 年度



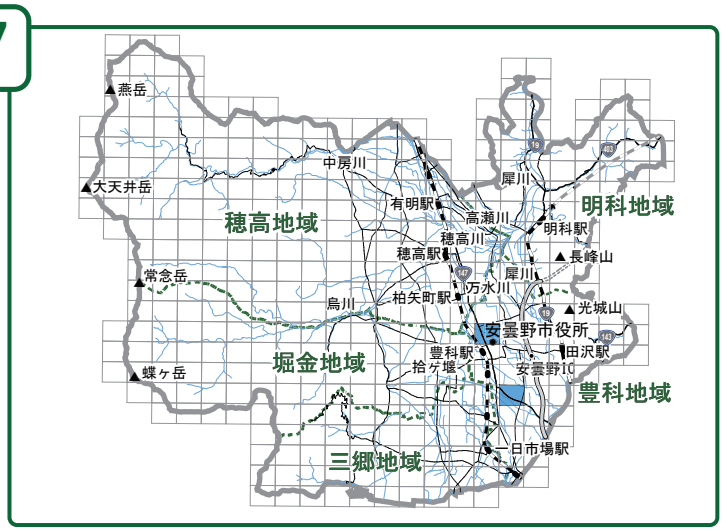
2018 年度



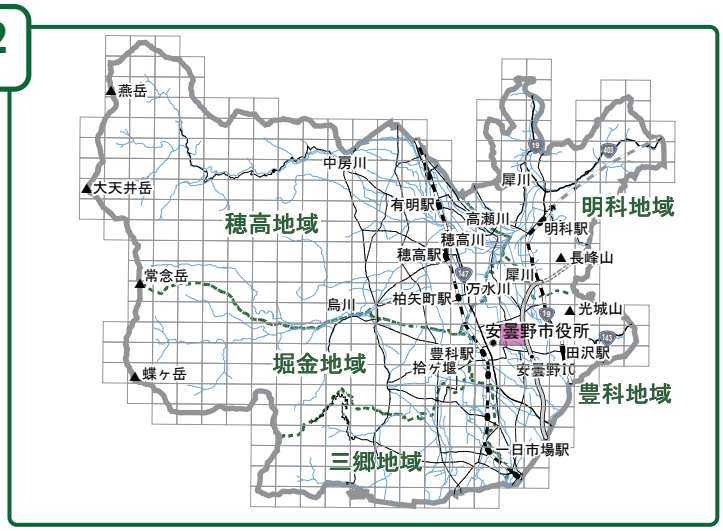
シナノタンポポは、生育が確認されている地域に減少傾向がみられます。特に今回の調査では、市内の南東部においてほとんど確認がありませんでした。市内の生育に適した場所が減少している可能性があります。

植　物【シロバナタンポポ】

2007 年度



2012 年度



2018 年度

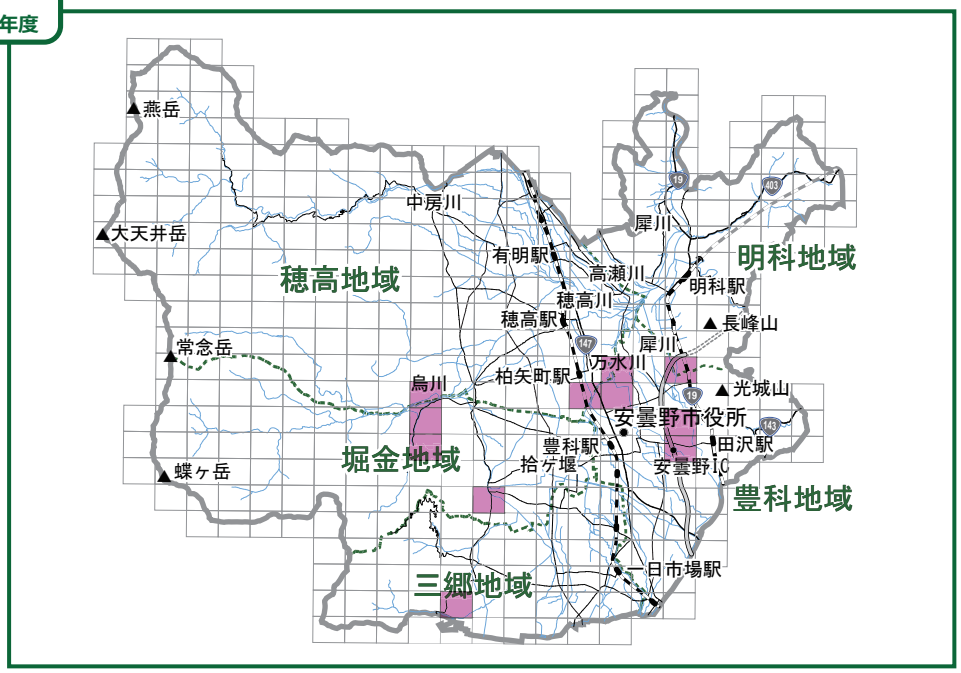
シロバナタンポポは、2007・2012年度は、平地のごく一部に少数の生育が確認されていましたが、今回の調査では確認の報告はありませんでした。元々市内には少ないタンポポなので見つからなかった可能性があります。

植　物【ヤブカンゾウ】

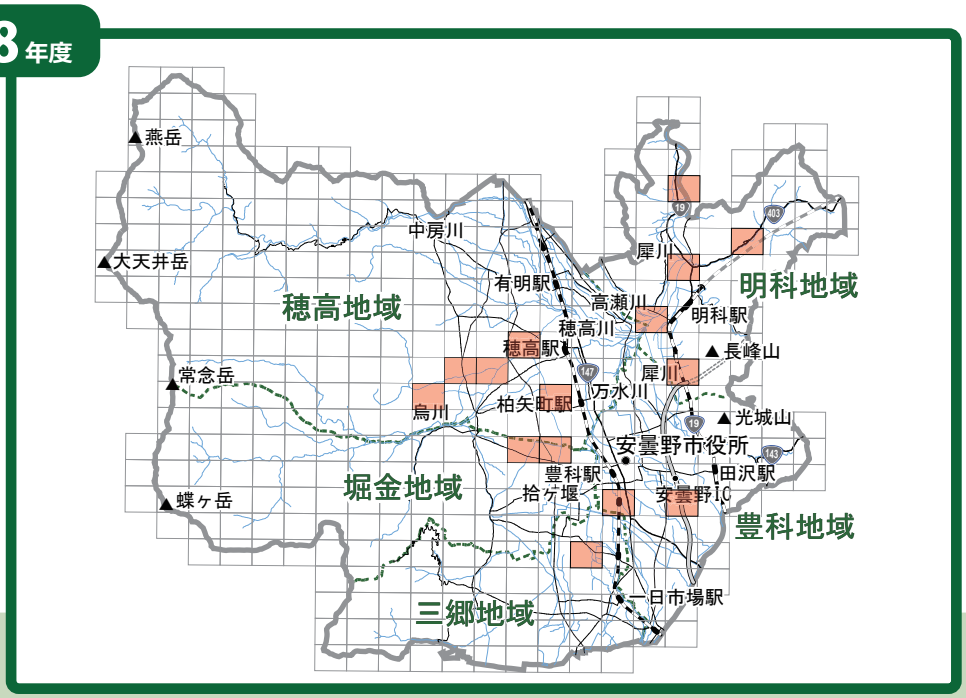
2007 年度調査対象外

ヤブカンゾウは、平地から山麓部にかけての広い範囲で生育が確認されています。2012 年度に比べると、今回の調査では北東部や南東部からの記録が増えています。

2012 年度

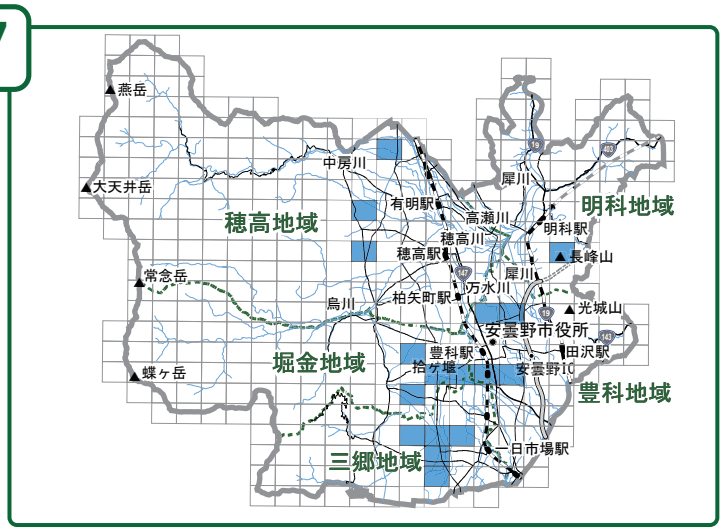


2018 年度

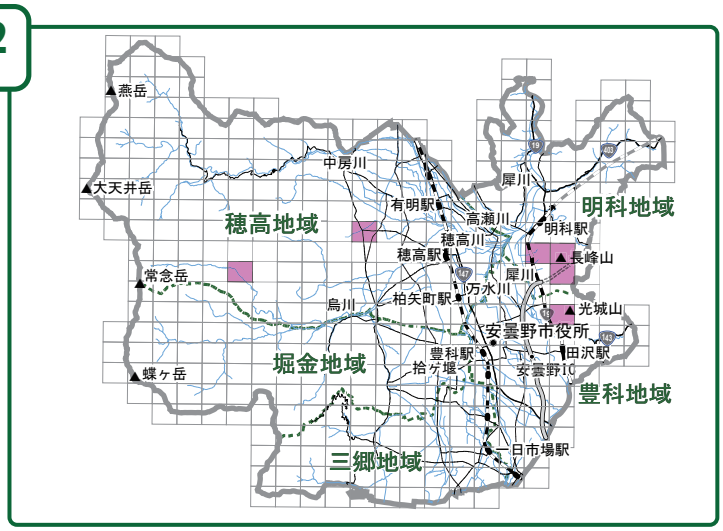


植　物（ウツボグサ）

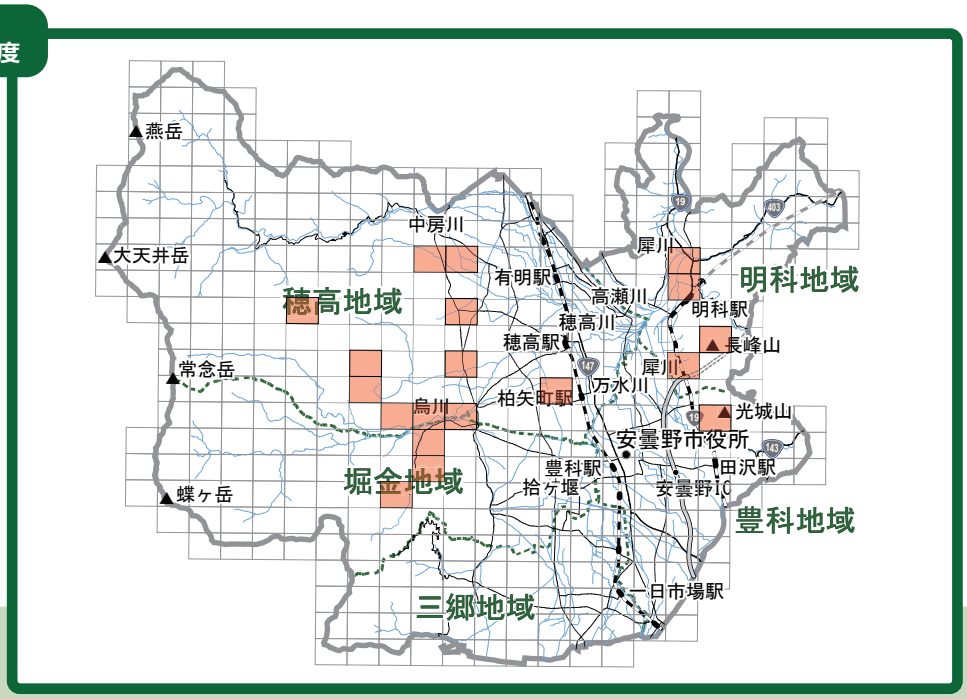
2007 年度



2012 年度



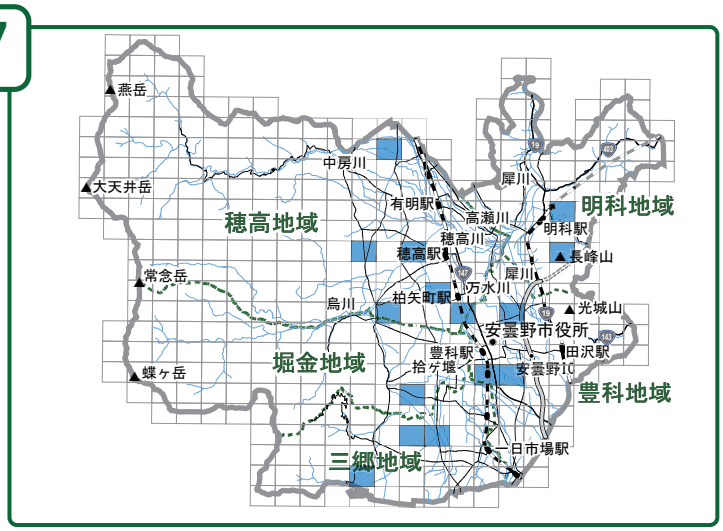
2018 年度



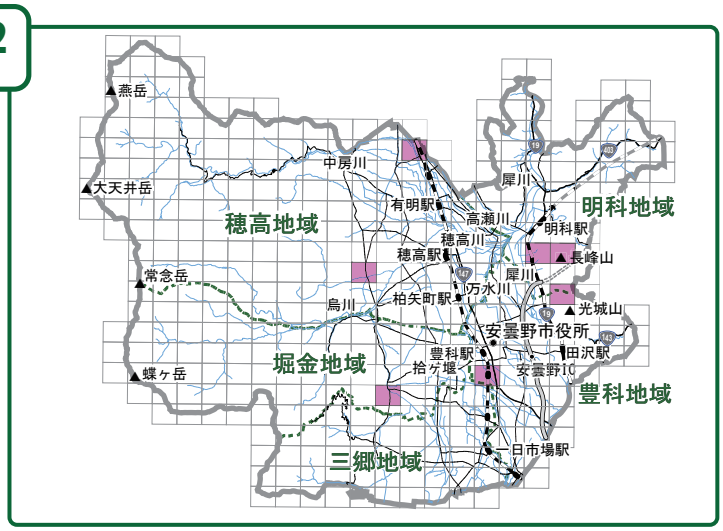
ウツボグサは、平地から山地にかけての広い範囲で生育が確認されていましたが、2012 年度以降は平地での記録はほとんどありません。平地では、ウツボグサの生育に適した場所が減少している可能性があります。

植　物【ワレモコウ】

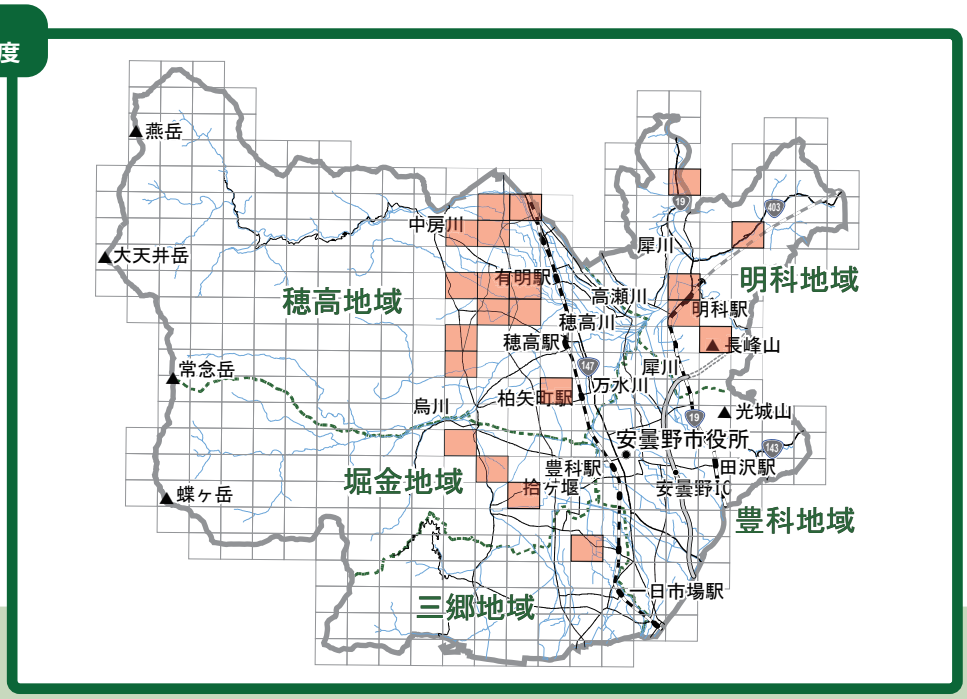
2007 年度



2012 年度



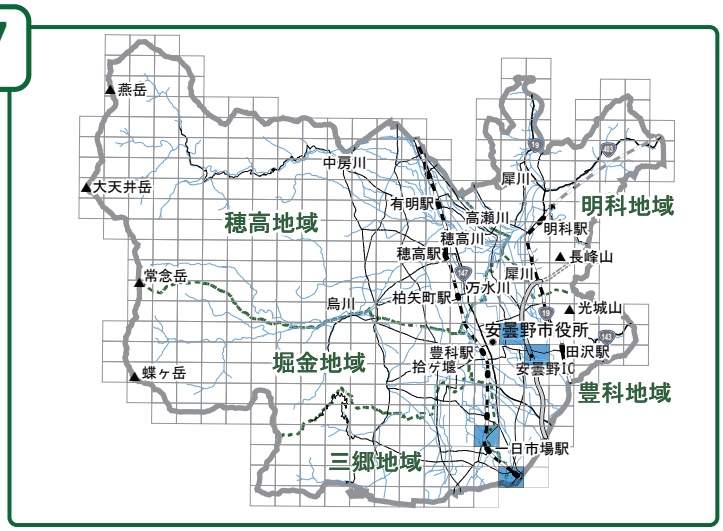
2018 年度



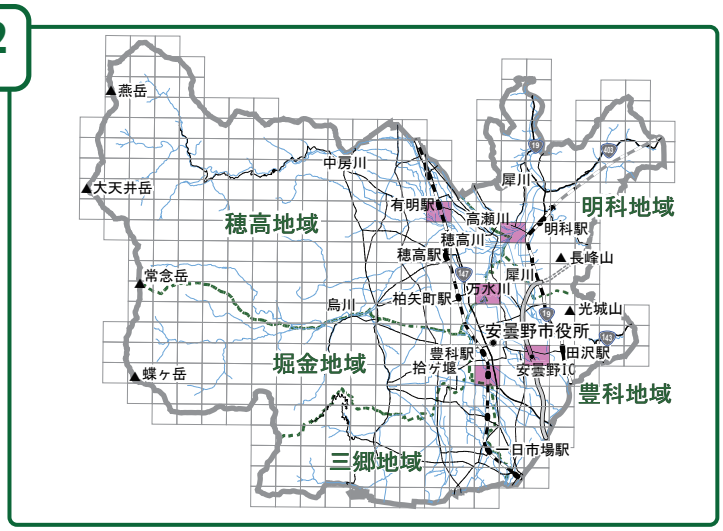
ワレモコウは、平地から山地にかけての広い範囲で生育が確認されていましたが、2012 年度以降は平地での記録が減少しています。平地では、ワレモコウの生育に適した場所が減少している可能性があります。

魚　類【シマドジョウ】

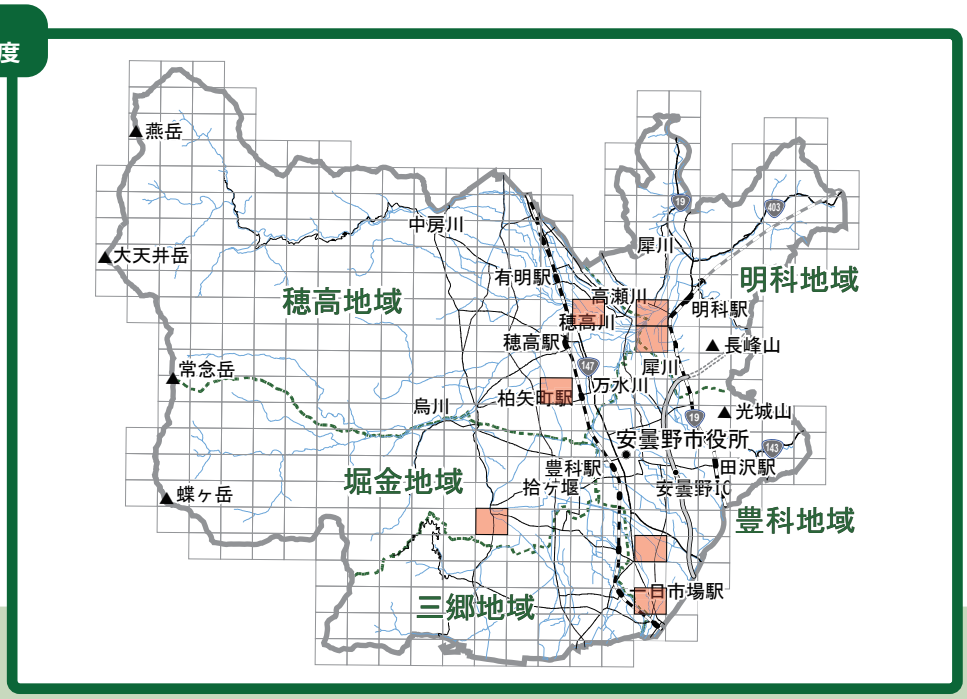
2007 年度



2012 年度



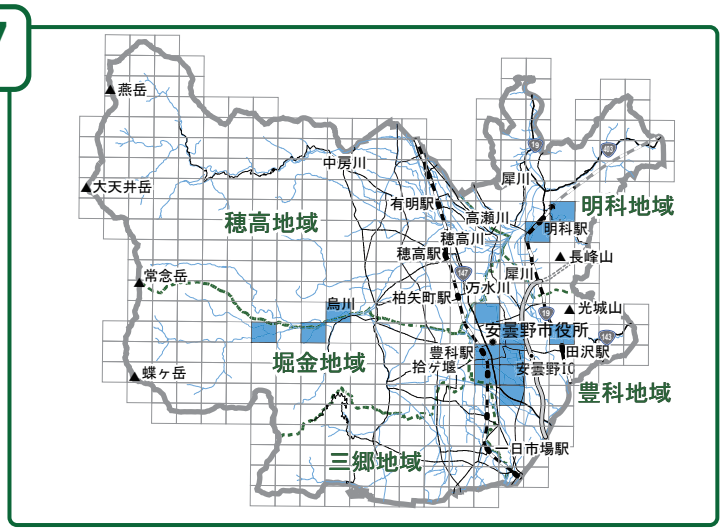
2018 年度



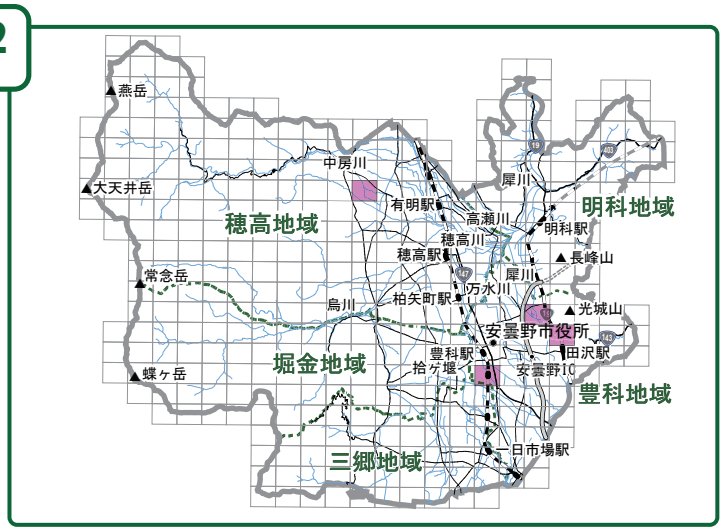
シマドジョウは、犀川や高瀬川及びその支川周辺において生息が確認されています。年度ごとに確認位置には多少違いが見られますが、今回の調査では、2007 年度または 2012 年度と重複する場所で報告があり、生息状況に大きな変化はないと考えられます。

水生生物【カワニナ】

2007 年度



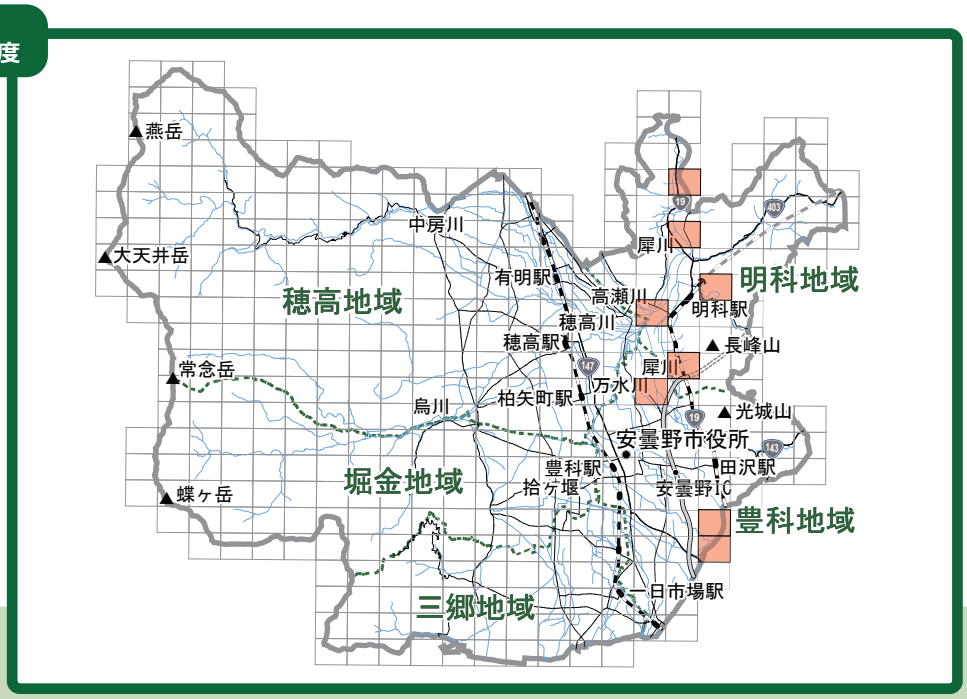
2012 年度



カワニナは、犀川周辺、烏川、平地の水路などで生息が確認されています。

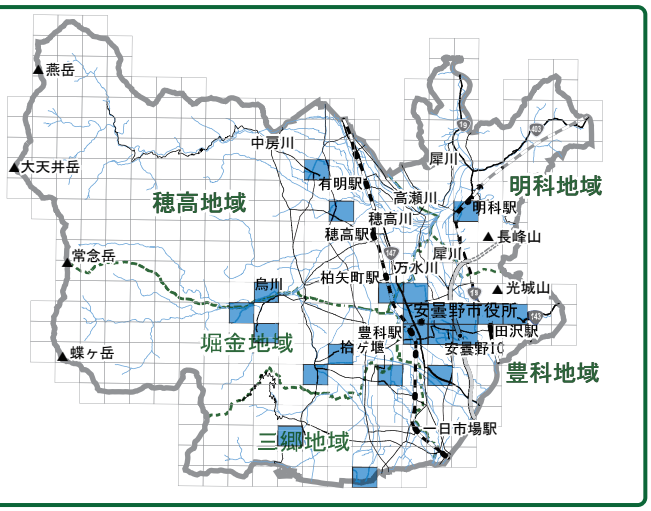
2012・2018 年度の調査では、烏川での確認の報告がなかったなどの変化はみられますが、犀川沿いにおいて複数箇所で確認されており、市内の水域に広く生息していると考えられます。

2018 年度

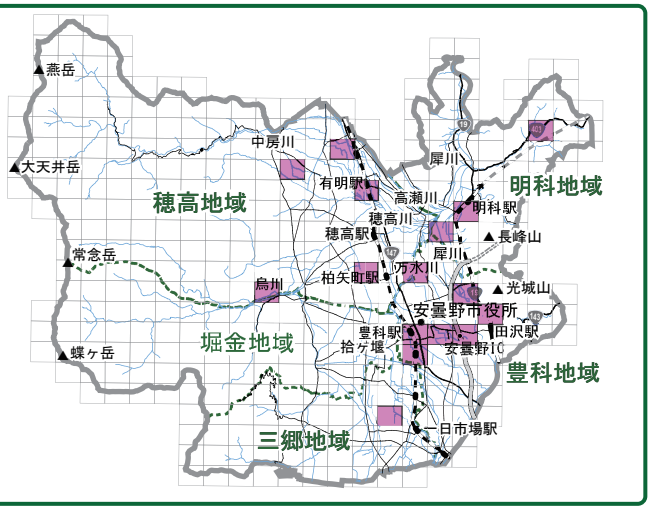


水生生物【サワガニ】

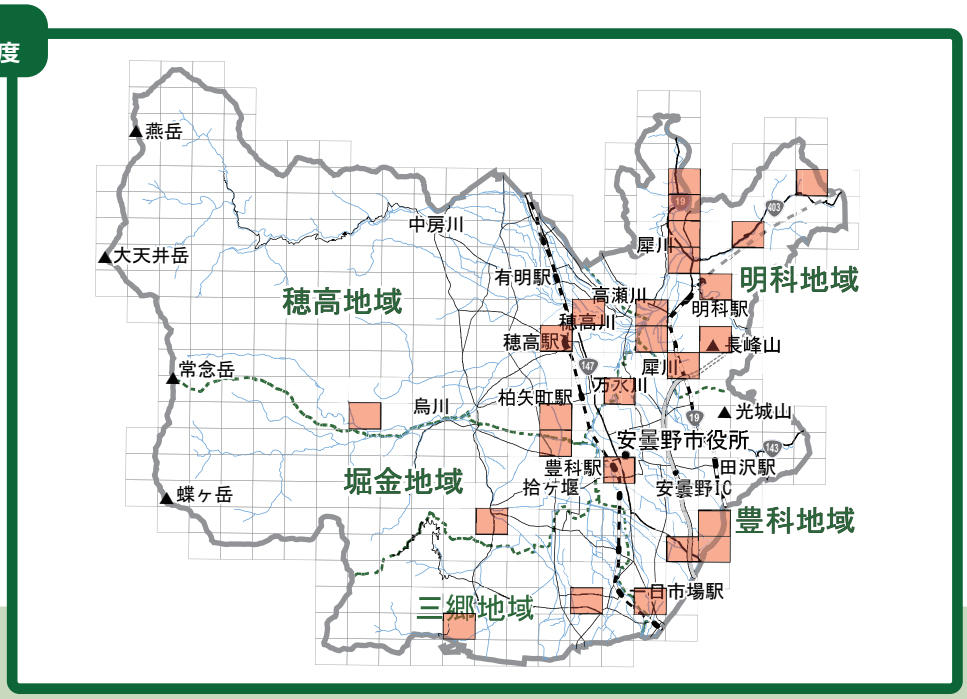
2007 年度



2012 年度



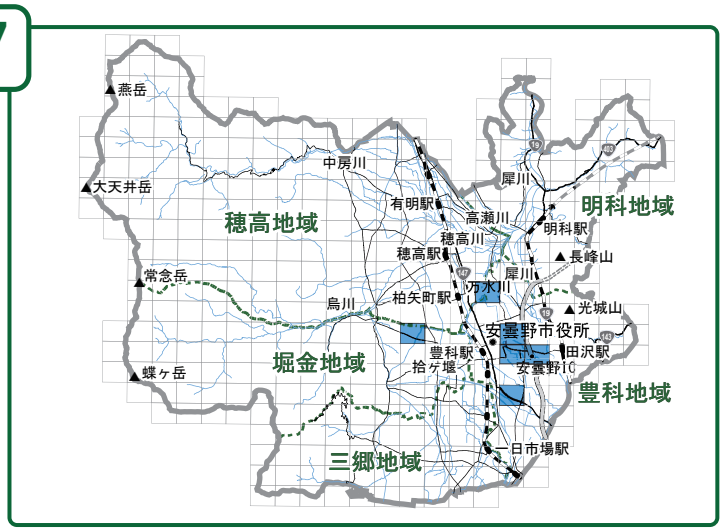
2018 年度



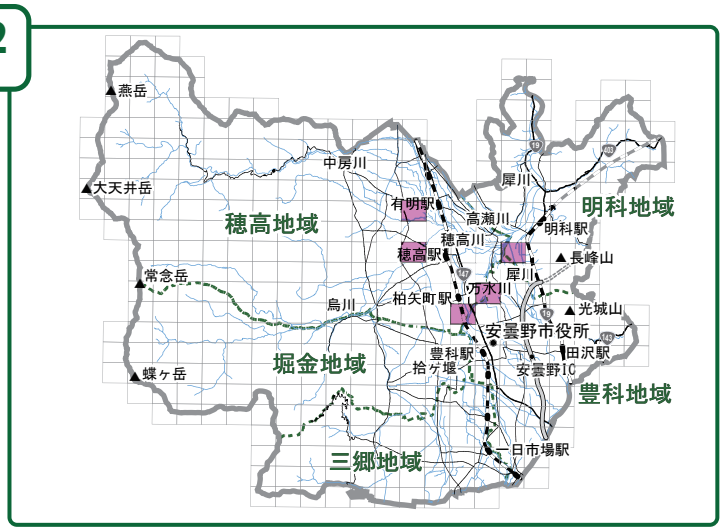
サワガニは、各年度とも市内の広い範囲で生息が確認されています。計３回の調査で大きな変化はみられておらず、市内の平地から山地の小中河川に多数生息していると考えられます。

水生生物【ホウネンエビ】

2007 年度



2012 年度

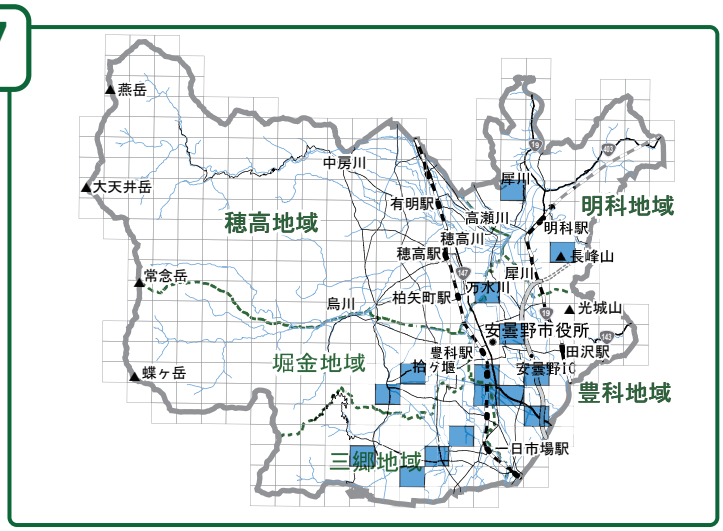


2018 年度

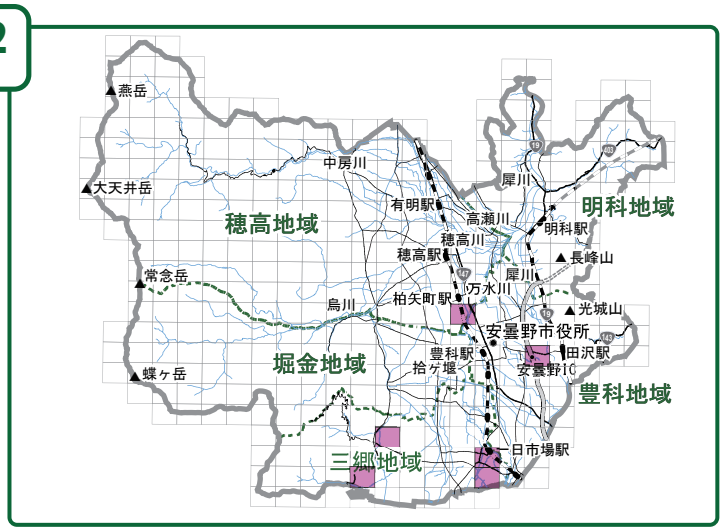
ホウネンエビは、2007・2012 年度の調査では、主に豊科・穂高地域で生息が確認されていましたが、今回の調査では市内全域で確認がありました。農薬の少ない環境を好むことから、農薬の少ないホウネンエビの生息に適した水田が増えてきた可能性があります。

昆虫類【ギンヤンマ】

2007年度



2012年度



ギンヤンマは、平地から山麓部にかけて生息が確認されています。年度によって確認されている場所の違いが大きいのは、産卵に利用する夏に水を張る水田の場所が、年により異なっていることが関係している可能性があります。

2018年度

昆虫類【クロスジギンヤンマ】

2007年度

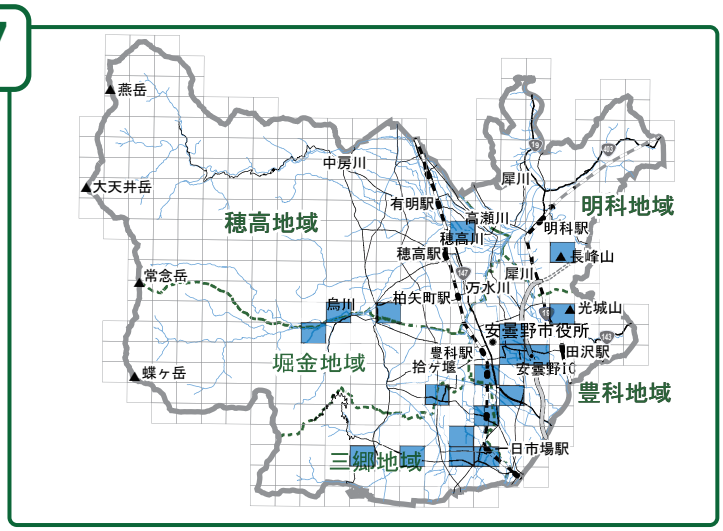
2012年度

2018年度

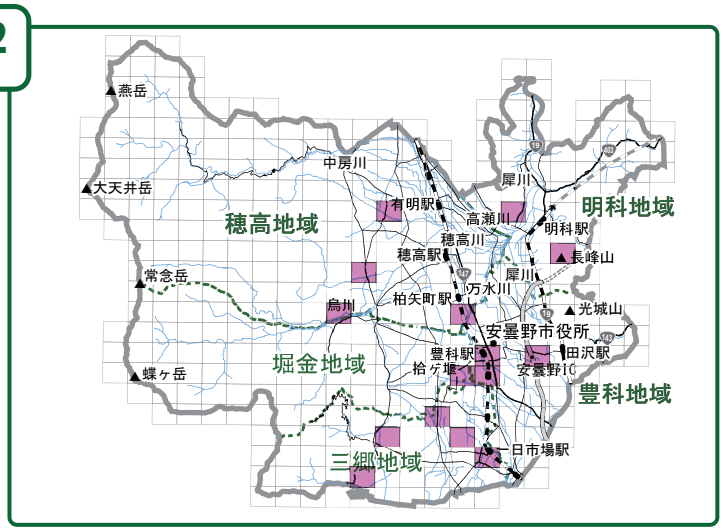
クロスジギンヤンマは、ギンヤンマに比べると確認例は少ないものの、山麓部から山地の広い範囲で生息が確認されています。林の中にある池を好むことから、林が広がる山麓部や山地での記録が多く、生息に適した環境が市内の各地に存在していると考えられます。

昆虫類 ツマグロヒョウモン

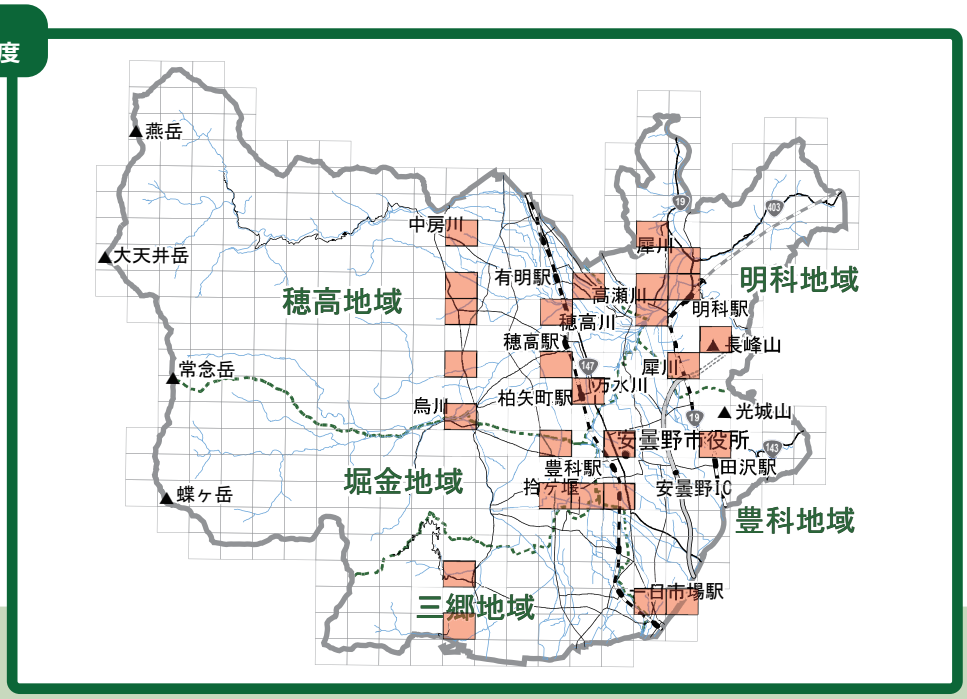
2007年度



2012年度



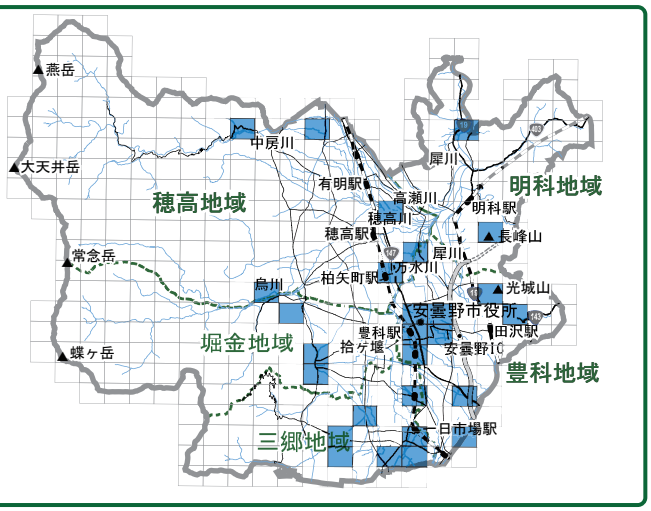
2018年度



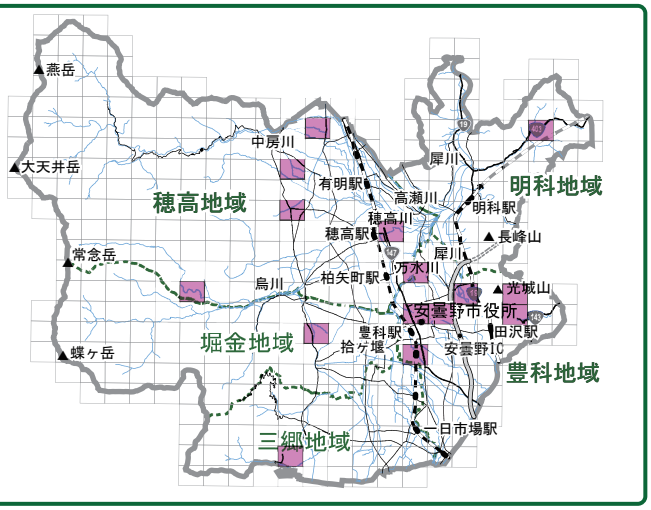
ツマグロヒョウモンは、平地から山麓部の広い範囲で生息が確認されており、年度ごとに確認場所が北部へ広がる傾向がみられます。暖かい地域に生息する種であり、市内の気温が少しずつ上昇してきたことや、庭に幼虫の餌（食草）となるパンジーを植える家が増えた結果、生息地が広がってきている可能性があります。

昆虫類 ヒグラシ

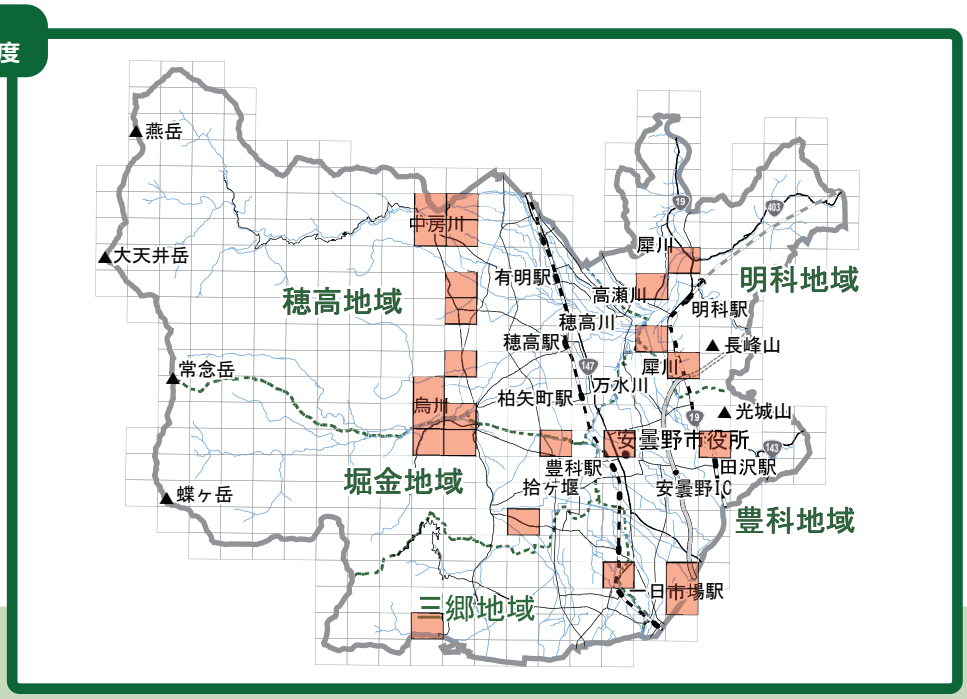
2007年度



2012年度



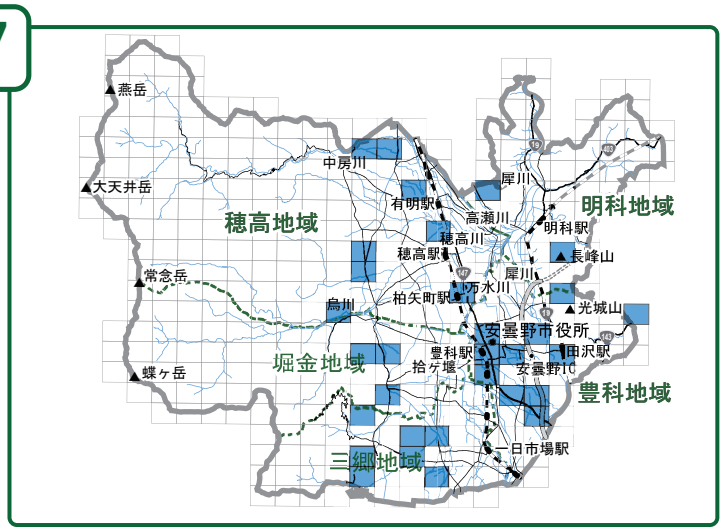
2018年度



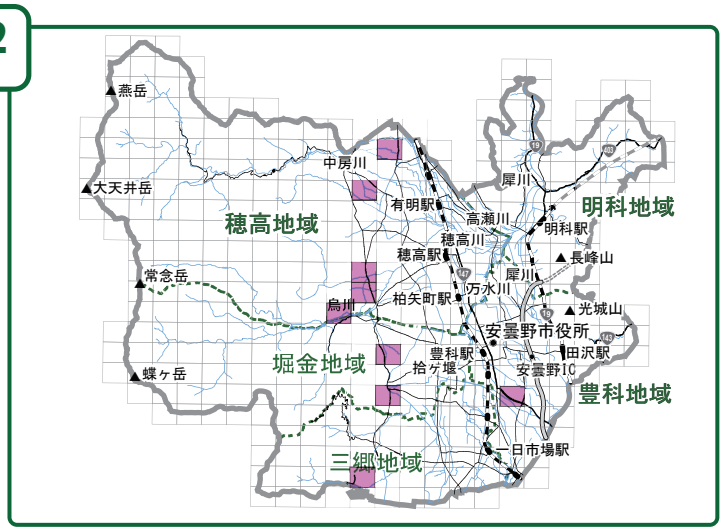
ヒグラシは、平地から山地の広い範囲で生息が確認されていますが、平地の確認は減少している傾向がみられます。平地ではヒグラシの生息に適した林や屋敷林が減少している可能性があります。

昆虫類【カブトムシ】

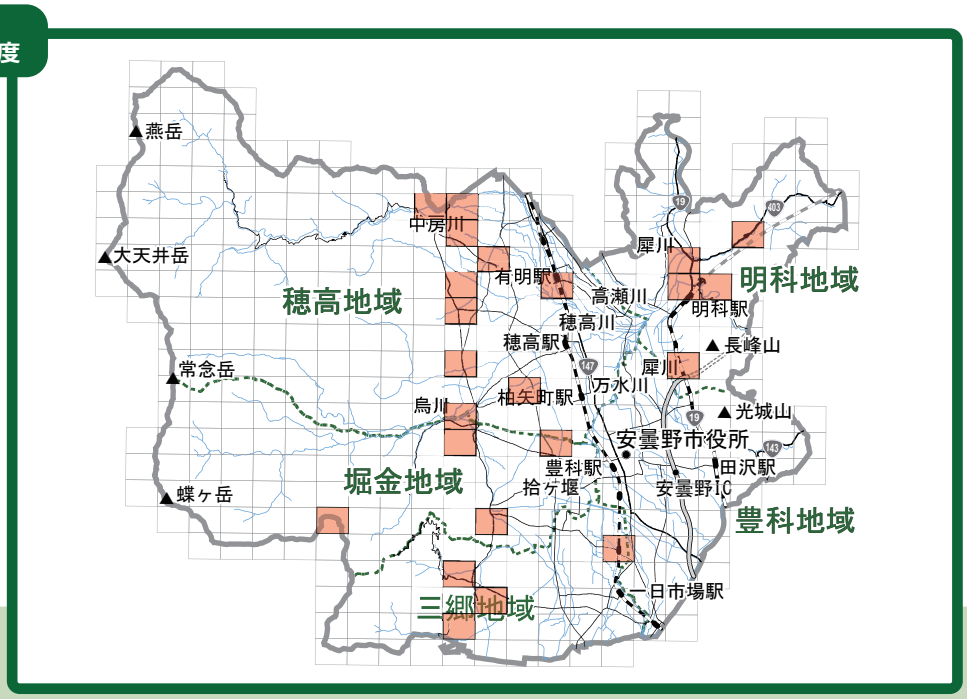
2007 年度



2012 年度



2018 年度



カブトムシは、平地から山麓部の広い範囲で生息が確認されていますが、2007 年度以降は市内南東部の平地での確認場所が減少している傾向があります。減少している地域では、カブトムシが好む樹液を出す広葉樹の林が減少している可能性があります。

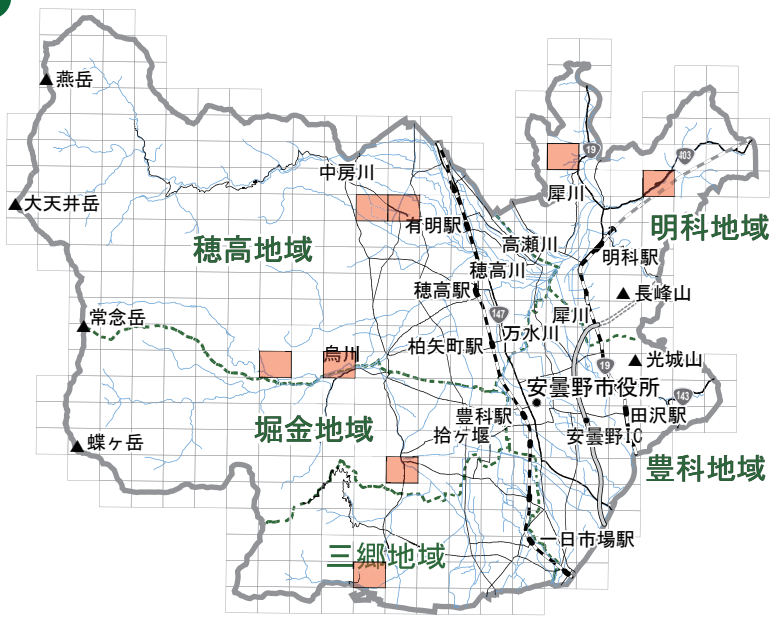
昆虫類【ミヤマクワガタ】

2007 年度調査対象外

ミヤマクワガタは、2012 年度は確認記録はありませんでしたが、今回は確認例は多くないものの、山麓部から山地にかけて生息が確認されています。ミヤマクワガタは昆虫採集の対象として子どもたちに人気が高い種です。これからも子どもたちが昆虫に親しめるよう必要以上に採集しないことが重要です。

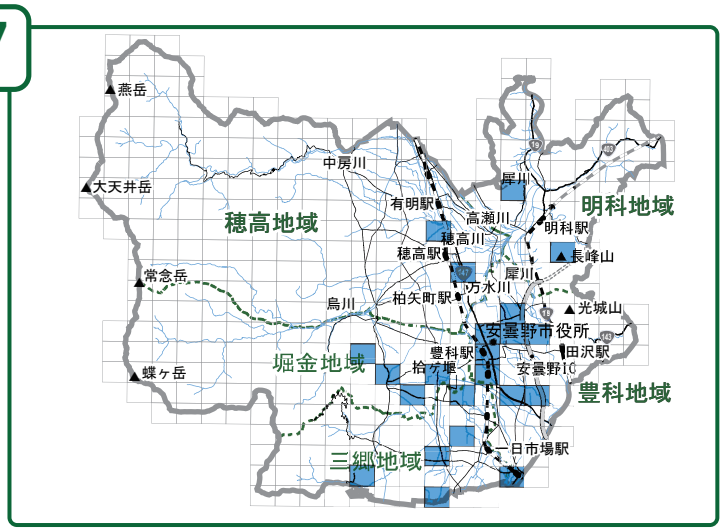
2012 年度

2018 年度

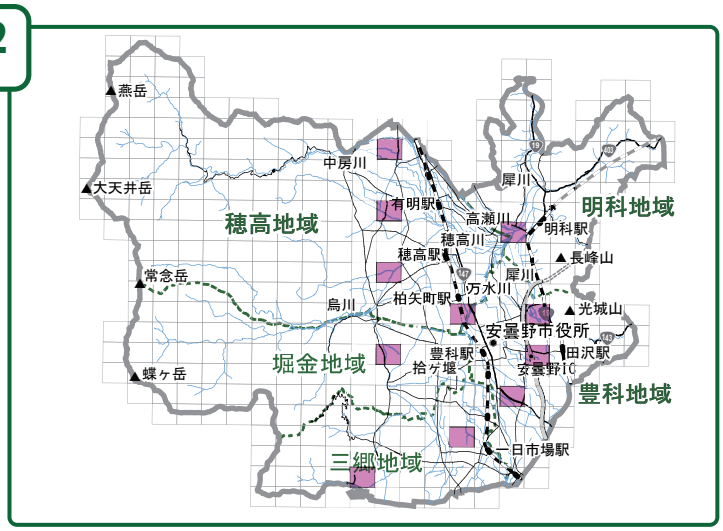


昆虫類【トノサマバッタ】

2007 年度



2012 年度



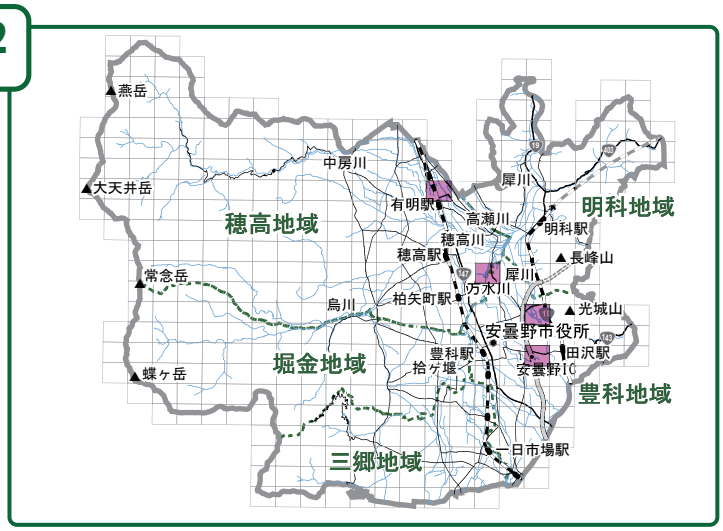
2018 年度

トノサマバッタは、2007・2012 年度は平地から山麓部にかけての広い範囲で生息が確認されていましたが、今回の調査では確認場所が大きく減少し、特に南部では確認記録がありませんでした。トノサマバッタの生息に適した場所が減少している可能性があります。

鳥　類【カワセミ】

2007 年度

2012 年度



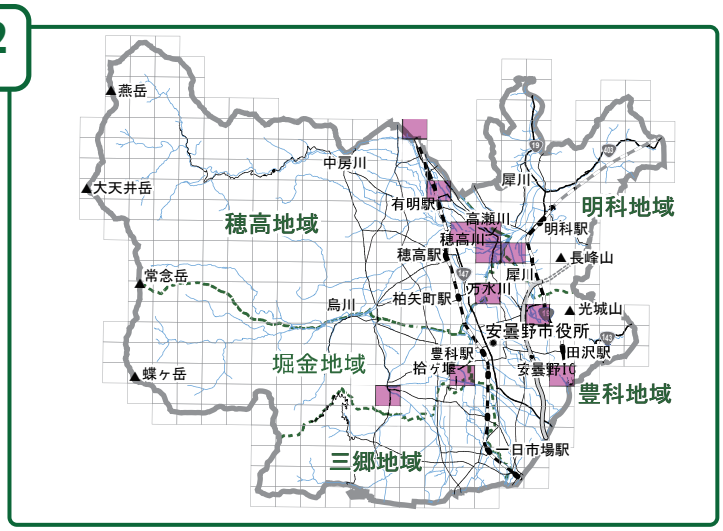
2018 年度

カワセミは、平地の河川を中心に生息が確認されています。特に市内を流れる河川や用水路が合流する穂高・明科地域での確認が多いことから、カワセミにとって、生活場所である河川や用水路がつながっていることが大切であると考えられます。

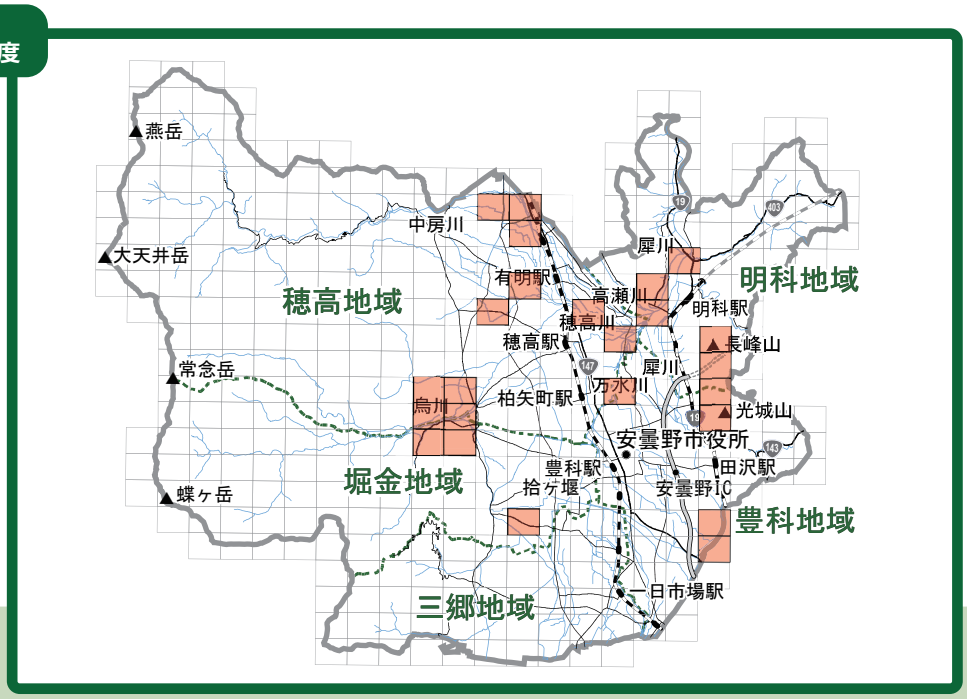
鳥　類【オオヨシキリ】

2007 年度

2012 年度



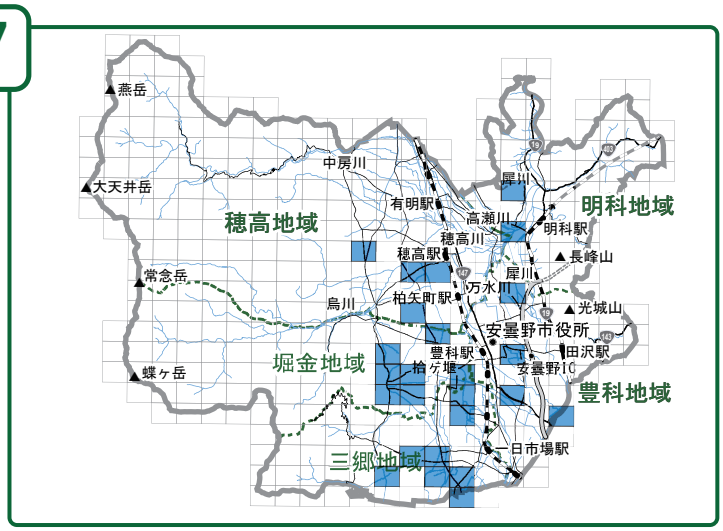
2018 年度



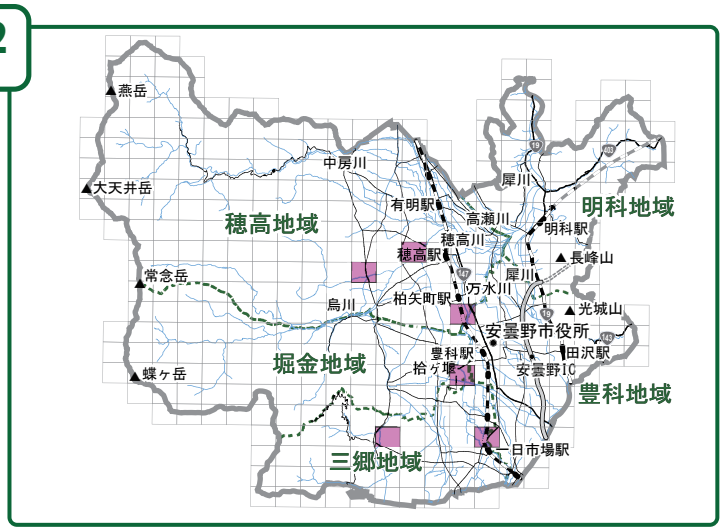
オオヨシキリは、平地から山麓部にかけて生息が確認されています。2007 年度に比べると、2012・2018 年度は山麓部での確認が増えている傾向がみられます。河川上流にもオオヨシキリの生活場所であるヨシ原や草地が広がりつつある可能性があります。

鳥　類 ヒバリ

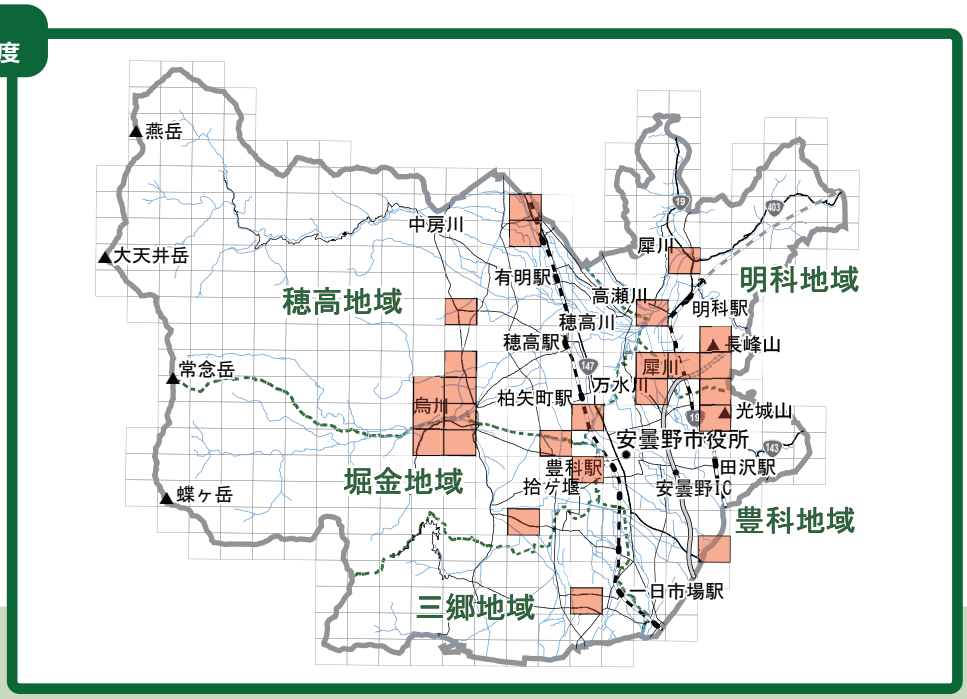
2007 年度



2012 年度



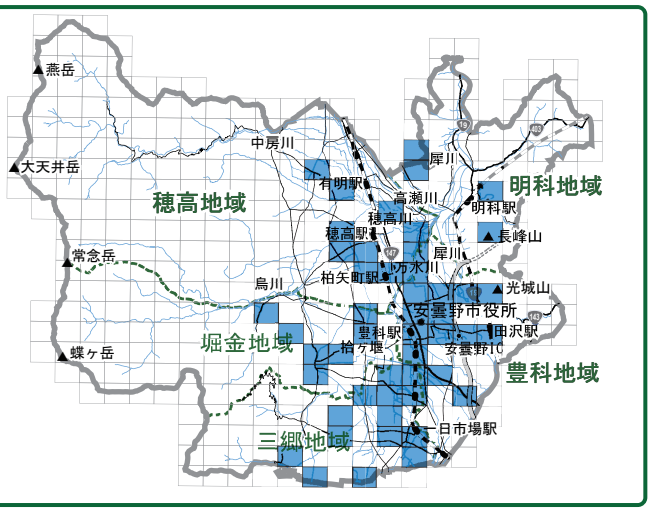
2018 年度



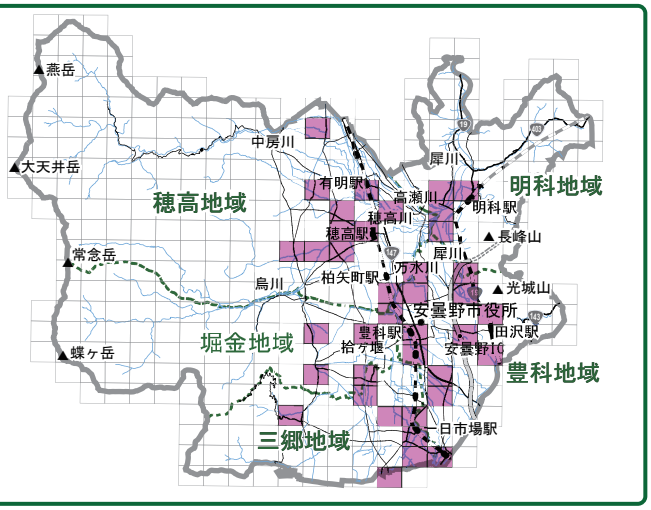
ヒバリは、2007 年度の調査では平地から山麓部にかけての畑や水田、河川敷の広い範囲で生息が確認されていましたが、2012 年度以降は南部での記録が減少しています。南部では生息に適した場所（開けた草地）が減少している可能性があります。

鳥　類（ツバメ）

2007 年度

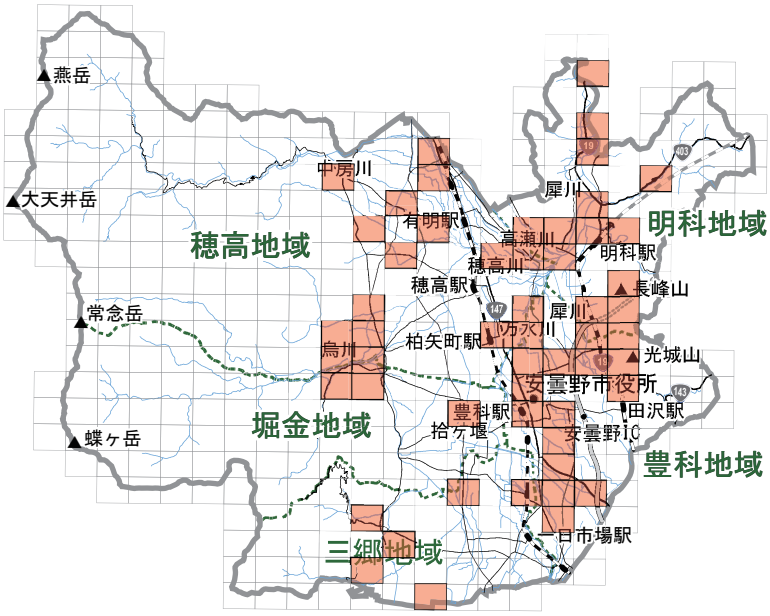


2012 年度



ツバメは、各年度とも平地から山麓部にかけての広い範囲で生息が確認されており、市内の生息状況に大きな変化はみられませんでした。しかしながら、他県では巣材の泥をとる水田の減少や、巣が造りにくい構造の家が増えてきたためツバメが少なくなっている地域もあり、今後の状況を見守ることが望まれます。

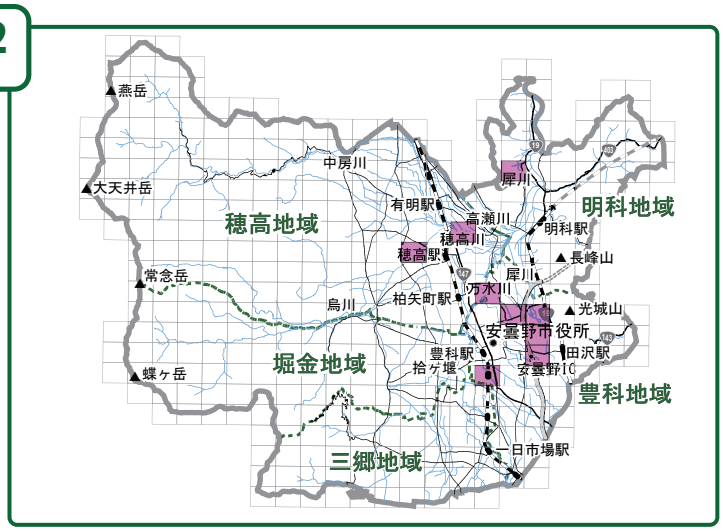
2018 年度



鳥　類【イワツバメ】

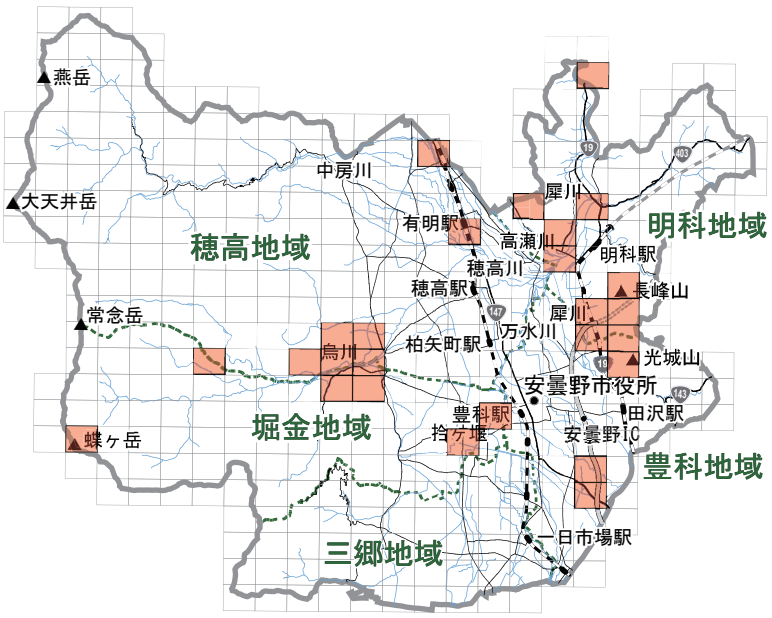
2007 年度

2012 年度



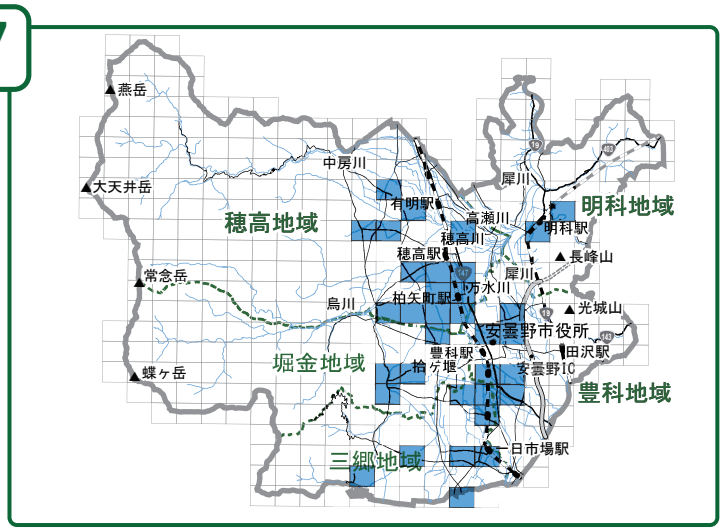
イワツバメは、平地から山麓部を中心に生息が確認されているほか、蝶ヶ岳などの高山帯でも確認されています。元々山地の崖地に巣を造る種でしたが、平地の建物や橋の壁などの人工物にも巣を造って繁殖するようになりました。市内には山地から平地まで繁殖に適した場所があると考えられます。

2018 年度

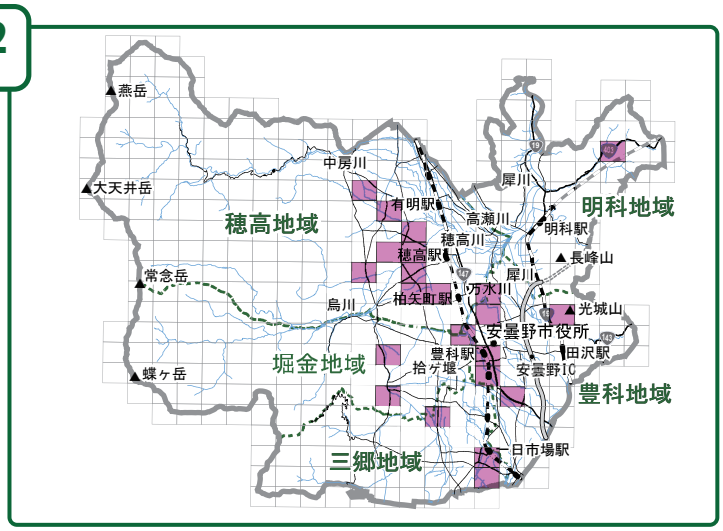


鳥　類【カッコウ】

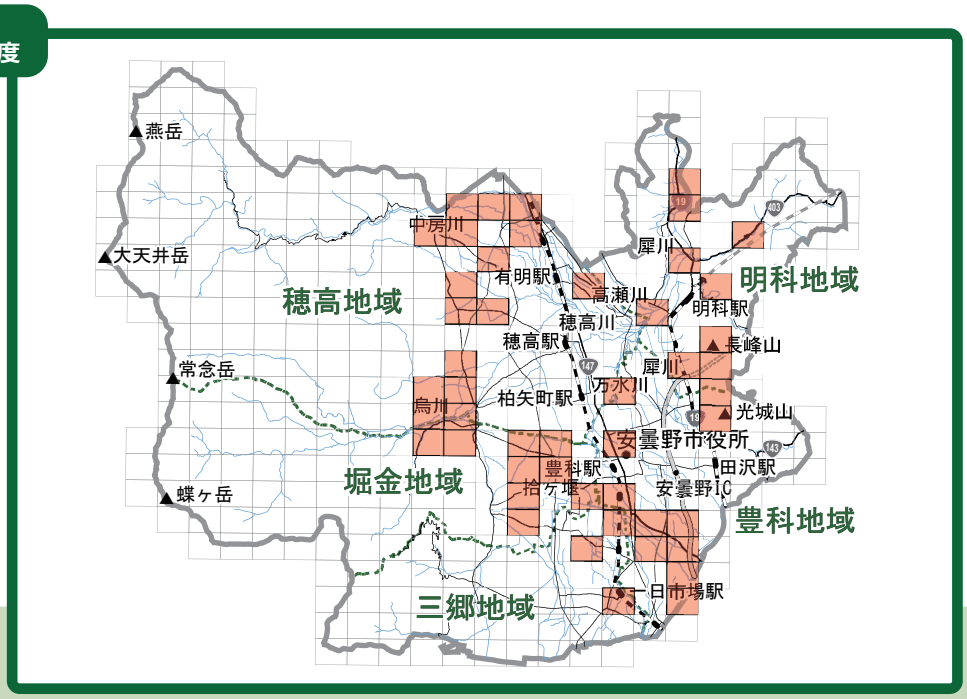
2007 年度



2012 年度



2018 年度



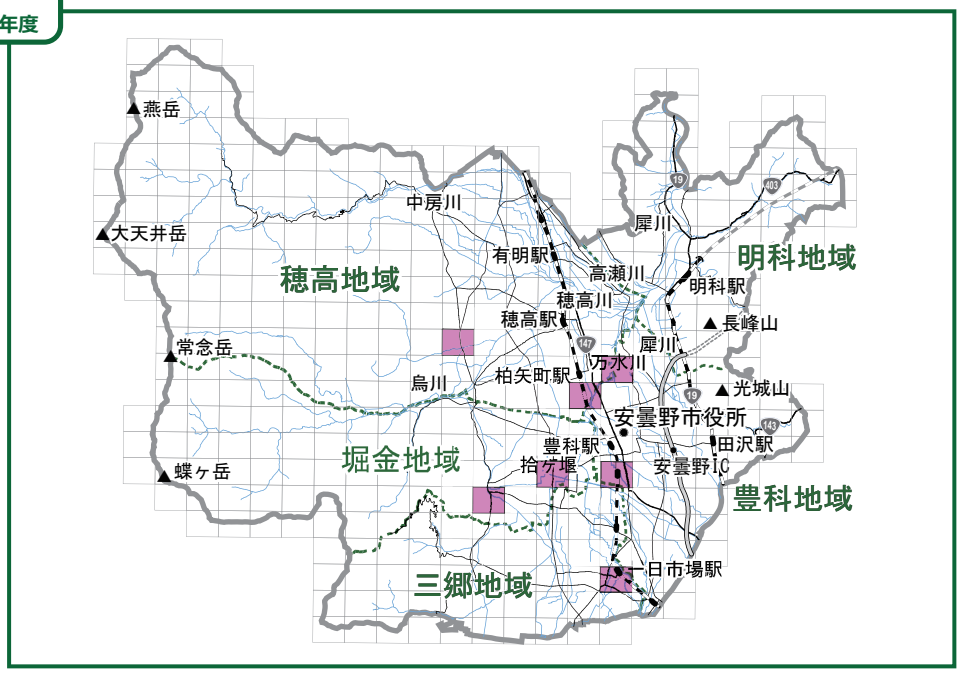
カッコウは、住宅地や商業施設が集中する市役所や安曇野 IC 周辺での記録は少ないものの、平地から山麓部にかけての広い範囲で生息が確認されています。年度による確認場所の違いは少しあるものの、生息状況に大きな変化はみられませんでした。

鳥　類 【オナガ】

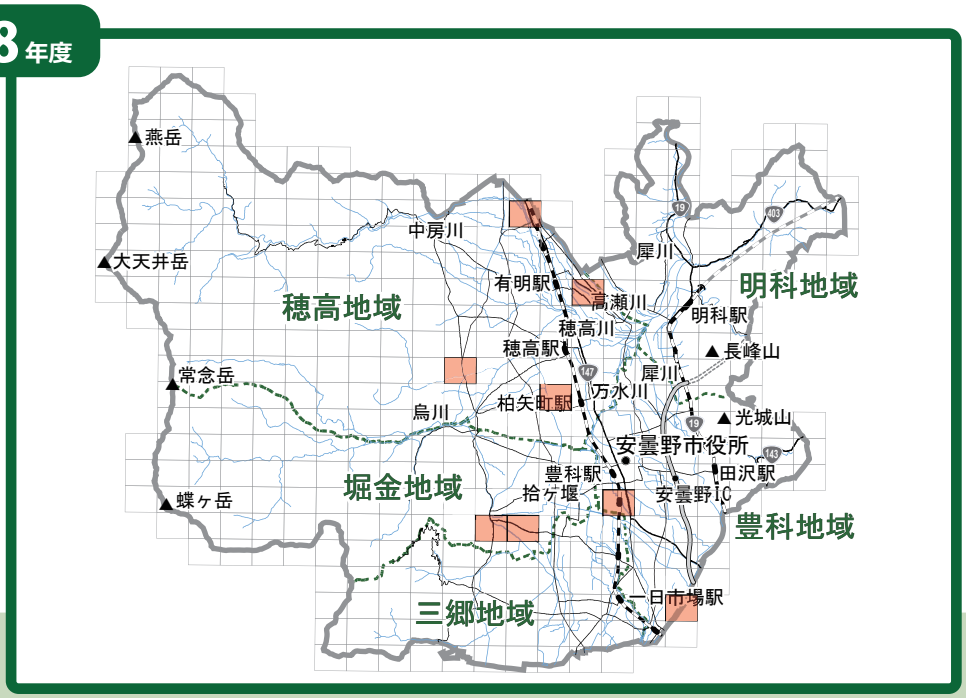
2007 年度調査対象外

オナガは、平地から山麓部にかけて生息が確認されているものの、確認記録は多くありませんでした。主に生息が確認されているのは、屋敷林や社寺林、果樹園などでした。屋敷林や社寺林は繁殖場所として、果樹園は餌をとる場所として利用していると考えられます。

2012 年度

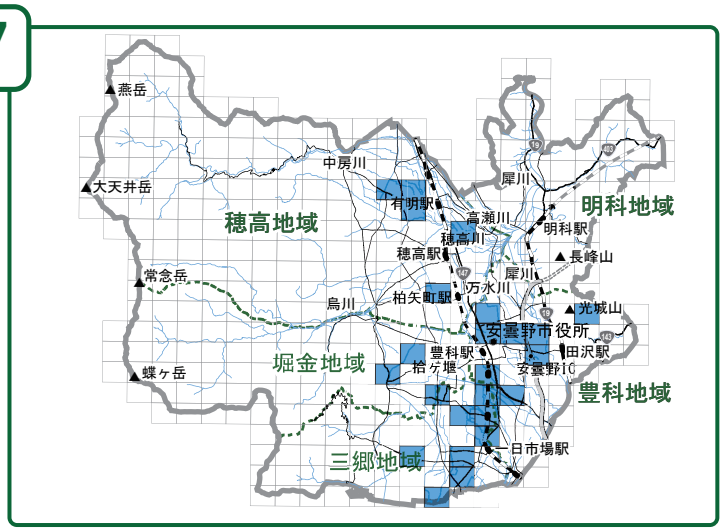


2018 年度

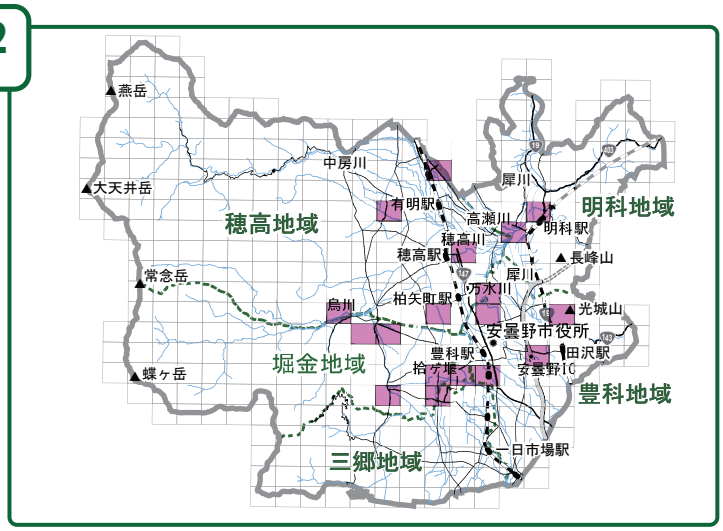


哺乳類【アブラコウモリ】

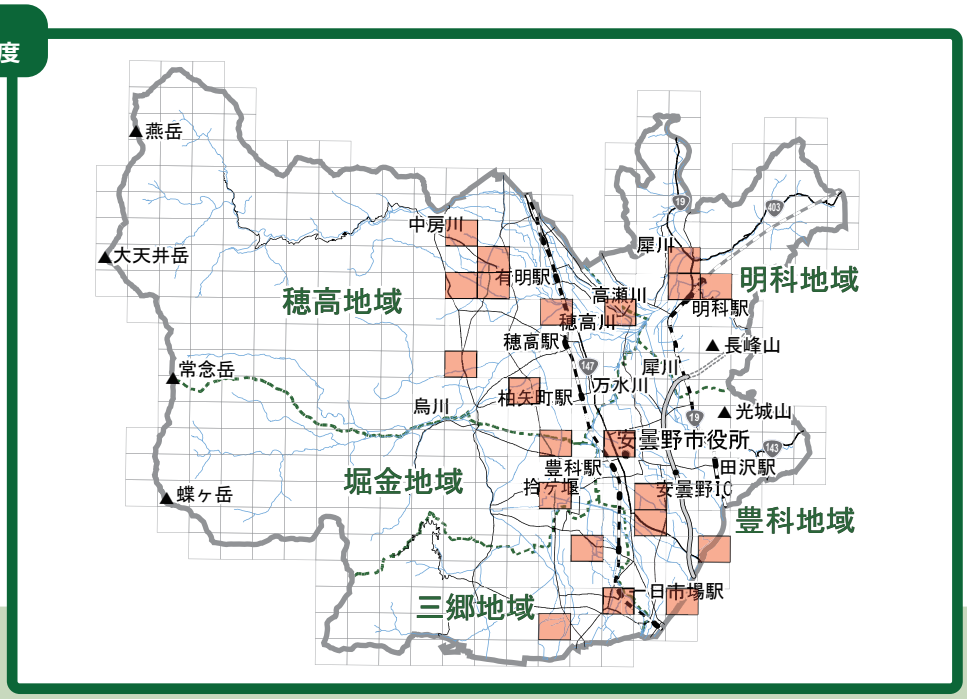
2007 年度



2012 年度



2018 年度



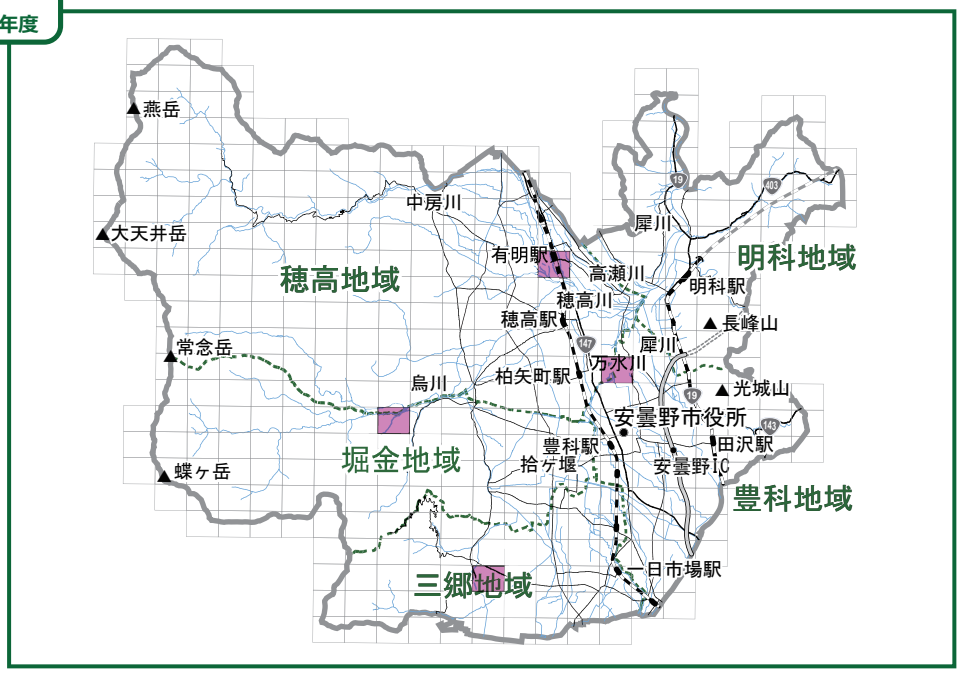
アブラコウモリは、平地を中心に広い範囲で生息が確認されています。これまで 3 回の調査では大きな変化はみられておらず、平地から山麓部にかけて多数生息していると考えられます。

哺乳類 ノウサギ

2007 年度調査対象外

ノウサギは、2012 年度の調査では、山地及び平地の一部で生息が確認されましたが、今回の調査では、山地での確認のみでした。平地などでは、生息に適した草原などが減少している可能性があります。

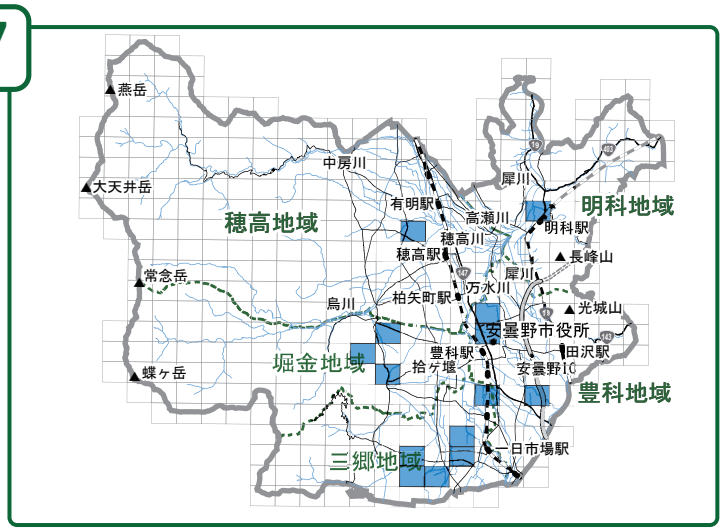
2012 年度



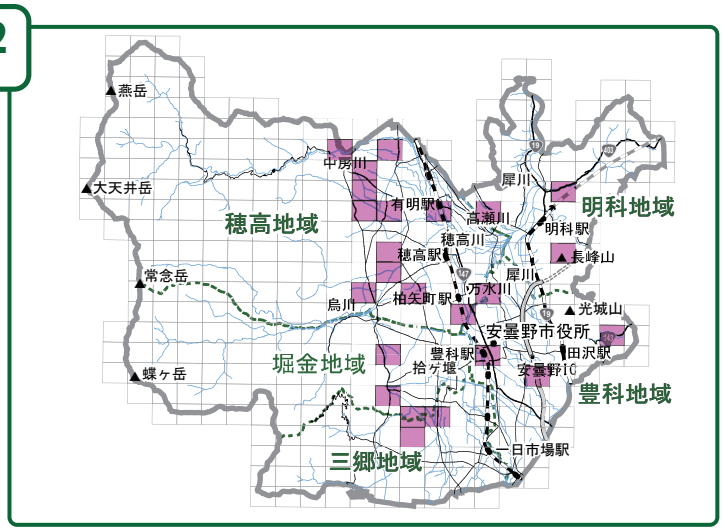
2018 年度

哺乳類【ホンドギツネ】

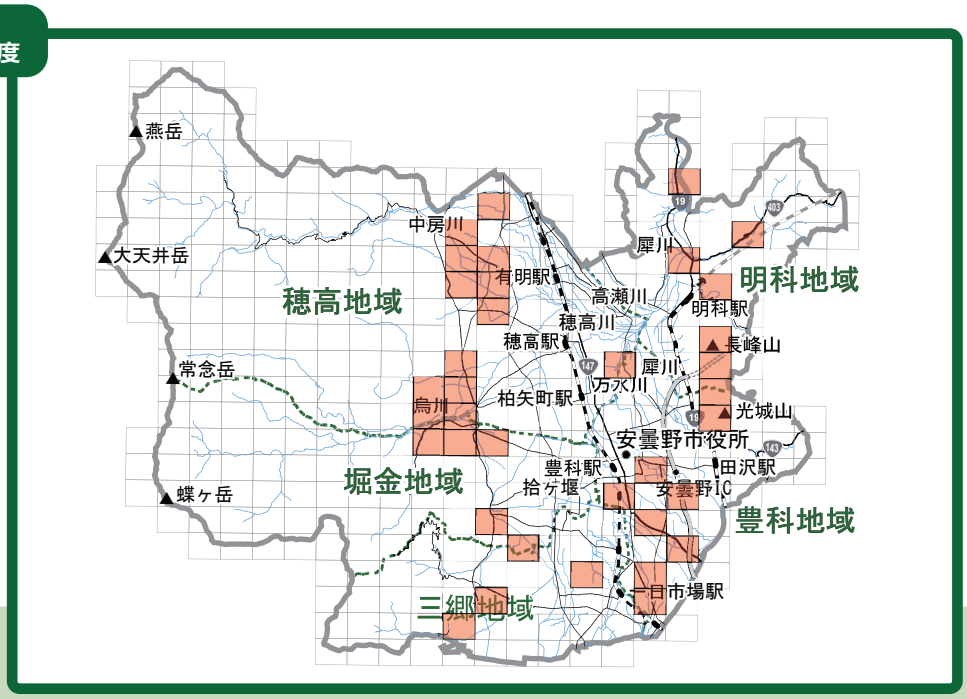
2007 年度



2012 年度



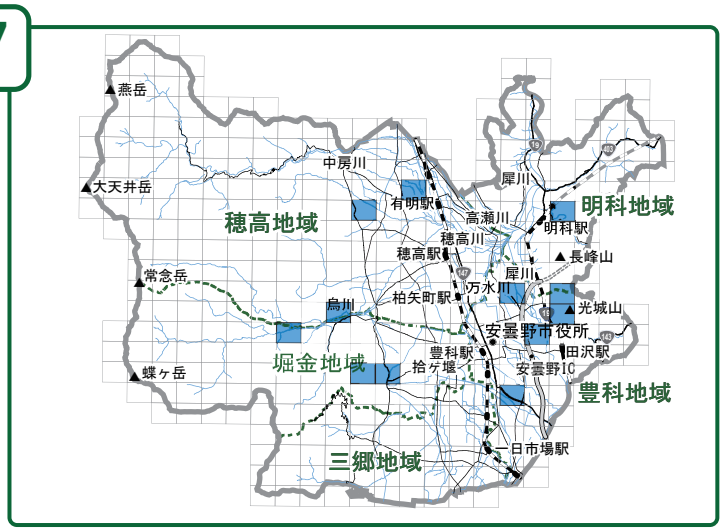
2018 年度



ホンドギツネは、2007 年度の調査では、主に市内の中・南部の平地や山地で生息が確認されていましたが、2012・2018 年度の調査では、穂高・明科地域を含む広い範囲で確認されています。市内の山麓部を中心に生息場所が広がっていると考えられます。

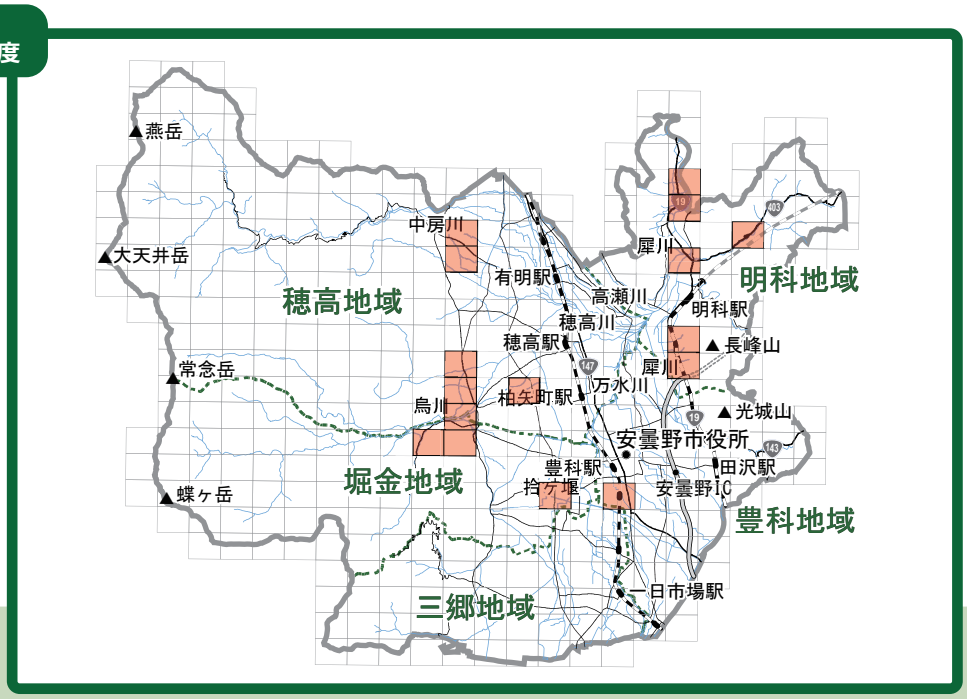
爬虫類【ニホントカゲ】

2007年度



2012年度

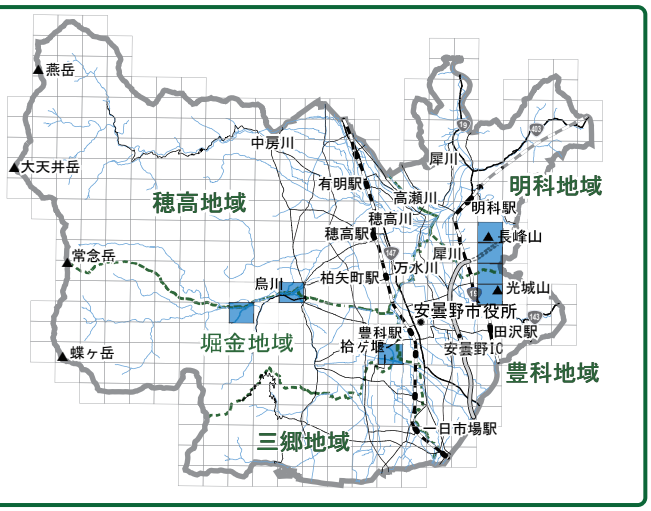
2018年度



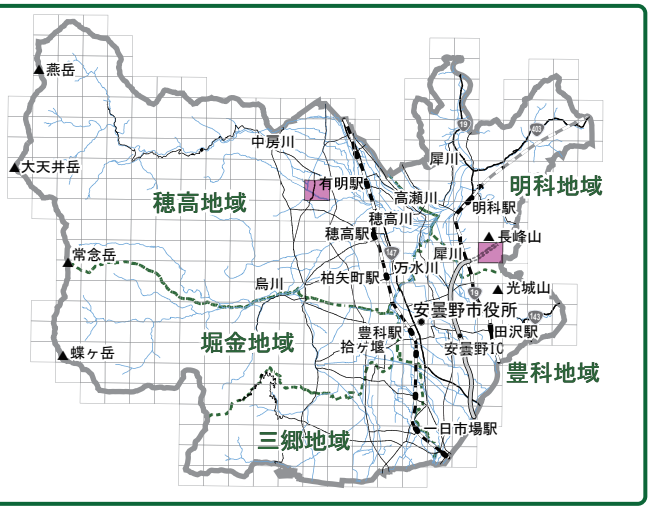
ニホントカゲは、平地から山麓部にかけて生息が確認されています。これまで３回の調査で大きな変化はみられておらず、山麓部や河川沿い周辺の日当たりのよい場所などで生息していると考えられます。

爬虫類【ニホンカナヘビ】

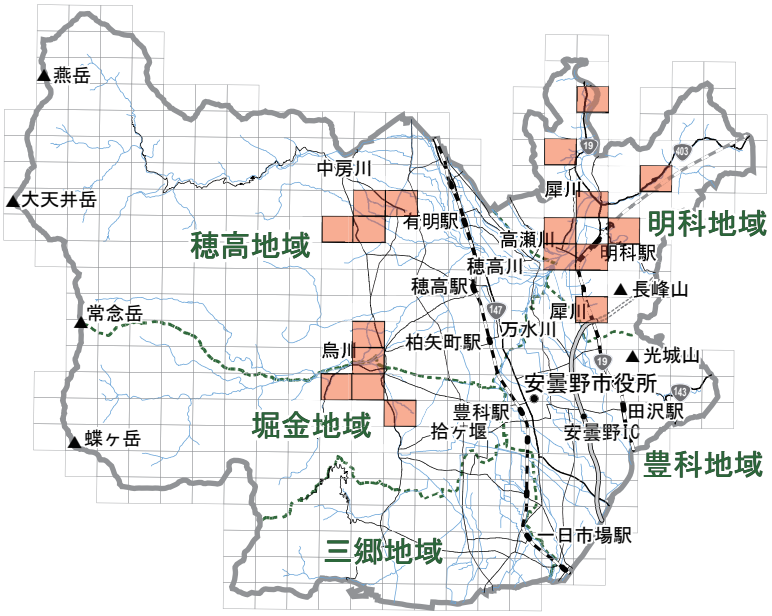
2007年度



2012年度



2018年度



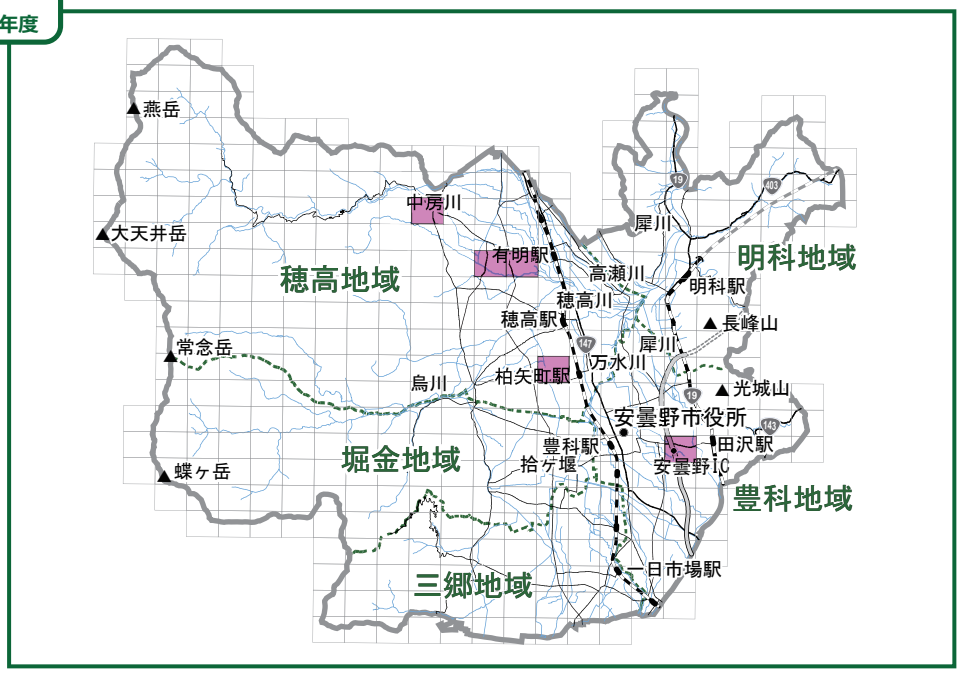
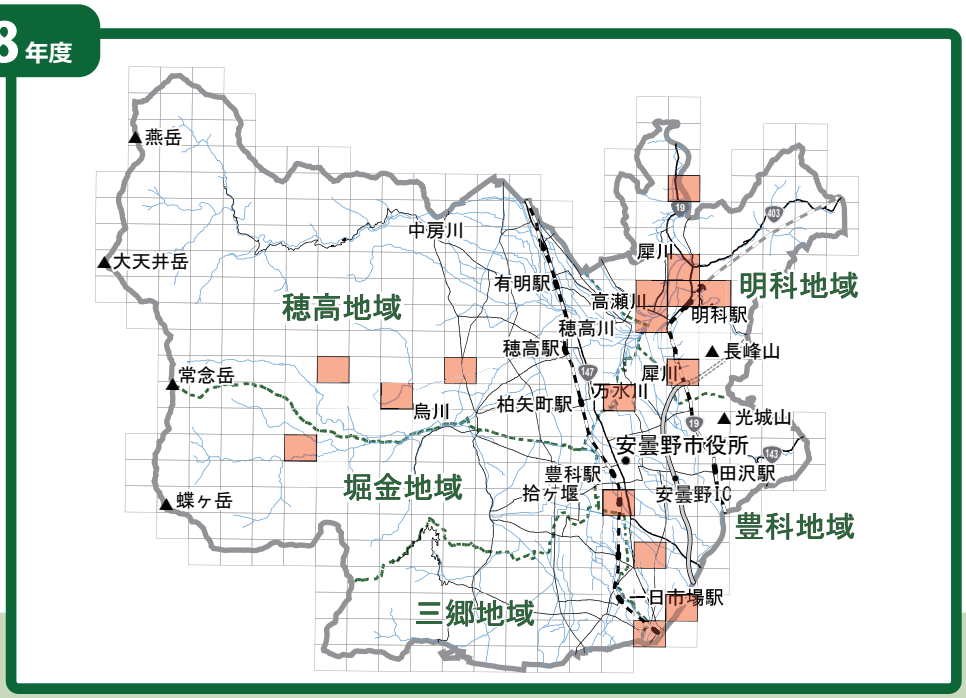
ニホンカナヘビは、市内の中・北部の山麓部から山地にかけて生息が確認されています。今回の調査では、犀川や烏川、中房川周辺などの河川沿いで多く確認されており、河川沿いには、生息に適した日当たりの良い場所が広がっていると考えられます。

陸上貝類【カタツムリの仲間】

2007 年度調査対象外

陸上に生息するカタツムリは、草地から山地まで多くの種が生息しています。ただし見分け方が難しいため、2012 年度の調査での確認は少ない状況でした。今回の調査では前回に比べて多くの確認の報告があり、写真や貝殻で判別した結果、ヒダリマキマイマイやウスカワマイマイなどが確認されました。

2012 年度



2018 年度